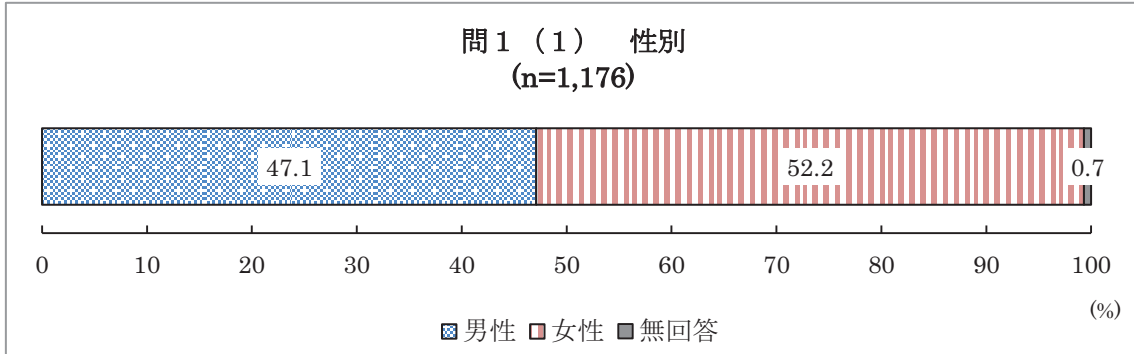


注) 選択肢を一部省略して表章しています。

II 調査結果の概要

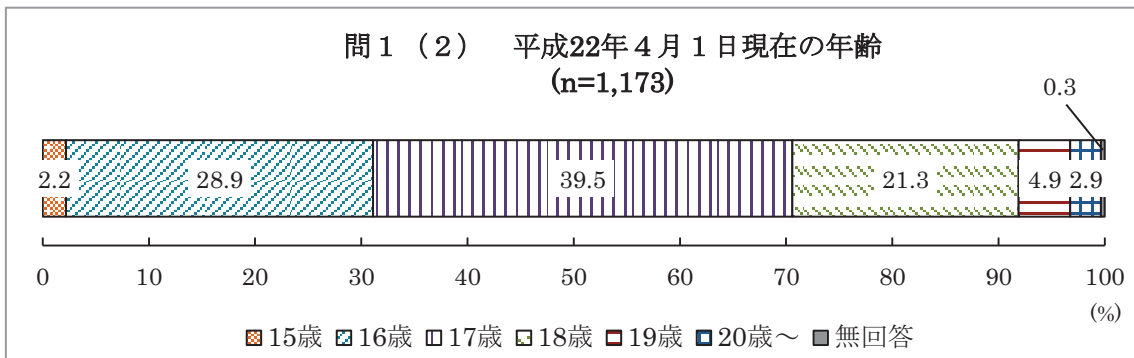
1 調査対象の属性

(1) 性別



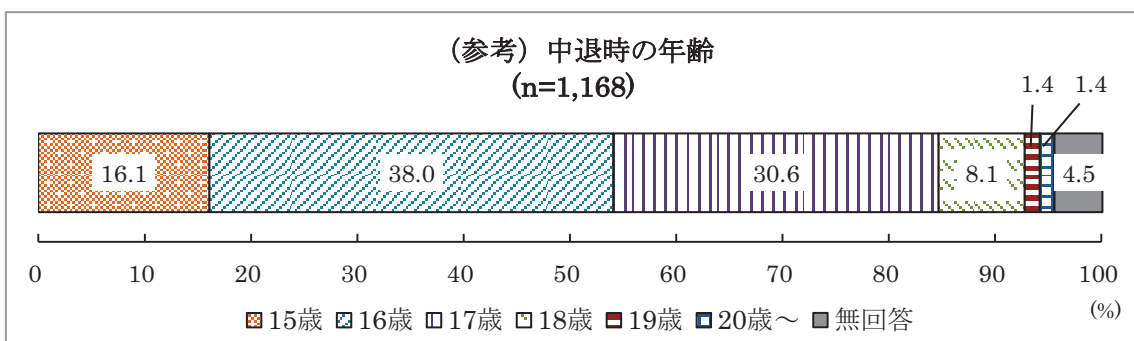
回答者の性別は、「男性」47.1%、「女性」52.2%となっている。

(2) 平成22年4月1日現在の年齢



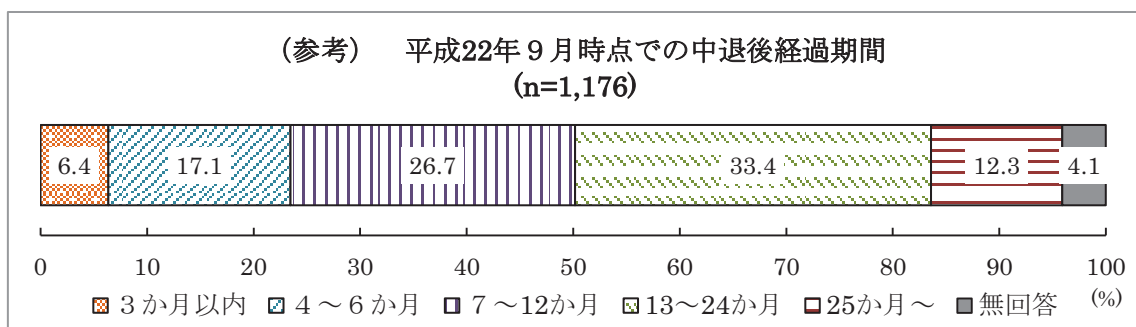
回答者の年齢は、15歳～19歳が96.8%となっている。

(参考) 中退時の年齢



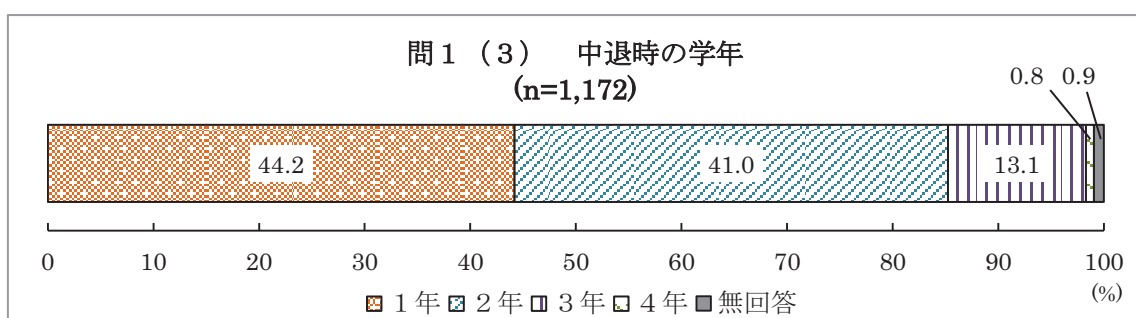
中退時の年齢は、15歳～19歳が94.2%となっている。

(参考) 平成 22 年 9 月時点での中退後経過期間



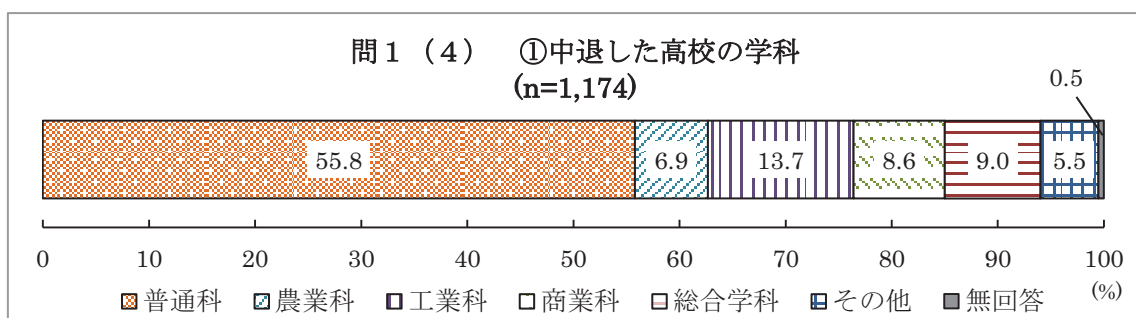
中退後経過期間は、24 か月以内（中退後概ね 2 年以内）の者が 83.6%となっている。

(3) 中退時の学年



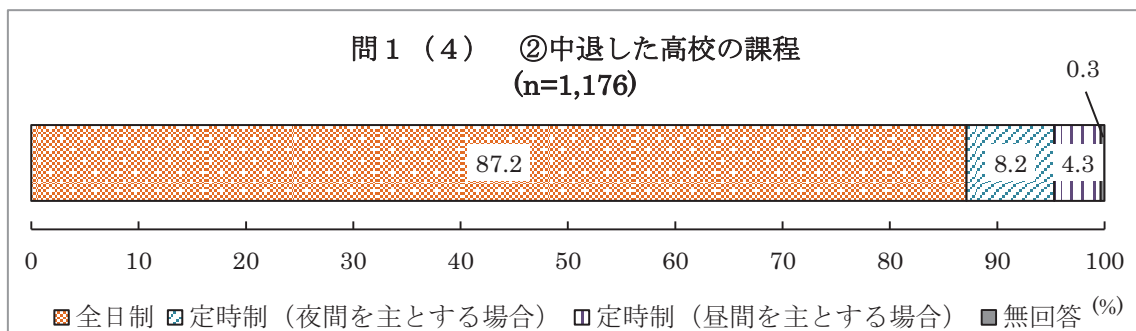
中退時の学年は、「1年」及び「2年」の合計で 85.2%となっている。

(4) 中退した高校の学科



回答者の中退した高校の学科で最も多いのは、「普通科」の 55.8%となっている。

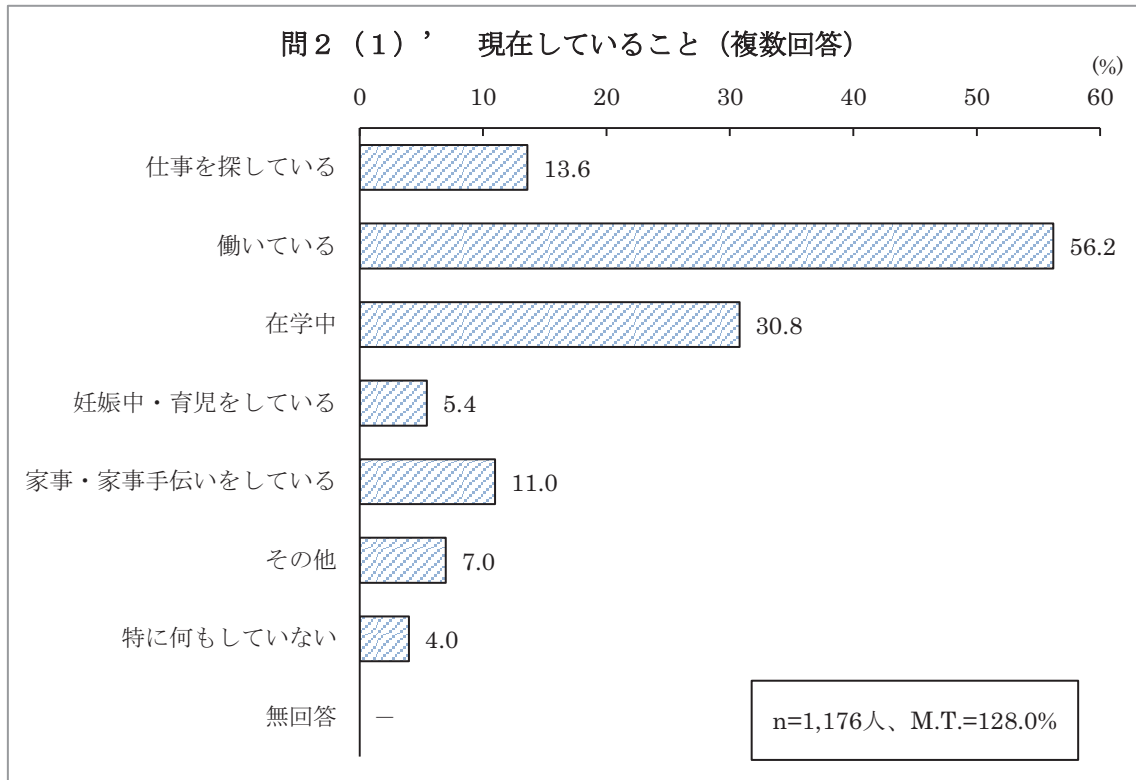
(5) 中退した高校の課程



回答者の中退した高校の課程で最も多いのは、「全日制」の 87.2%となっている。

2 現在していること

(1) 全体の分布



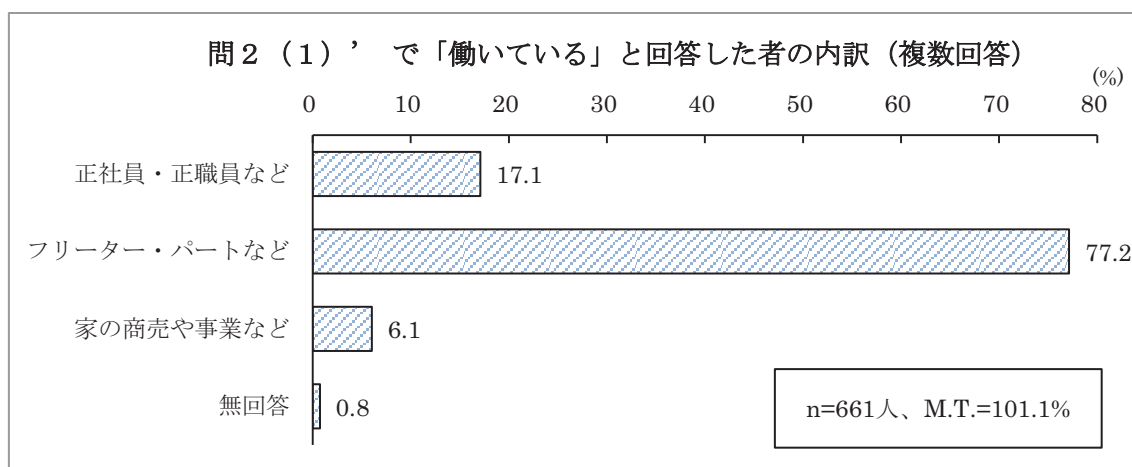
現在していることは、「働いている」56.2%、次いで「在学中」30.8%となっている。

(注) 問2(1)と問2(1)'との対応関係

問2(1)	問2(1)'
1 仕事を探している	仕事を探している
2 働いている(正社員・正職員など)	働いている
3 働いている(フリーター・パートなど)	
4 働いている(家の商売や事業など)	
5 高校に在学中(全日制・定時制。休学中も含む。)	
6 高校に在学中(通信制。休学中も含む。)	在学中
7 専門学校に在学中(夜間部・通信制なども含む。休学中も含む。)	
8 大学に在学中(夜間部・通信制なども含む。休学中も含む。)	
9 妊娠中・育児をしている	妊娠中・育児をしている
10 家事・家事手伝いをしている	家事・家事手伝いをしている
11 その他	その他
12 特に何もしていない	特に何もしていない

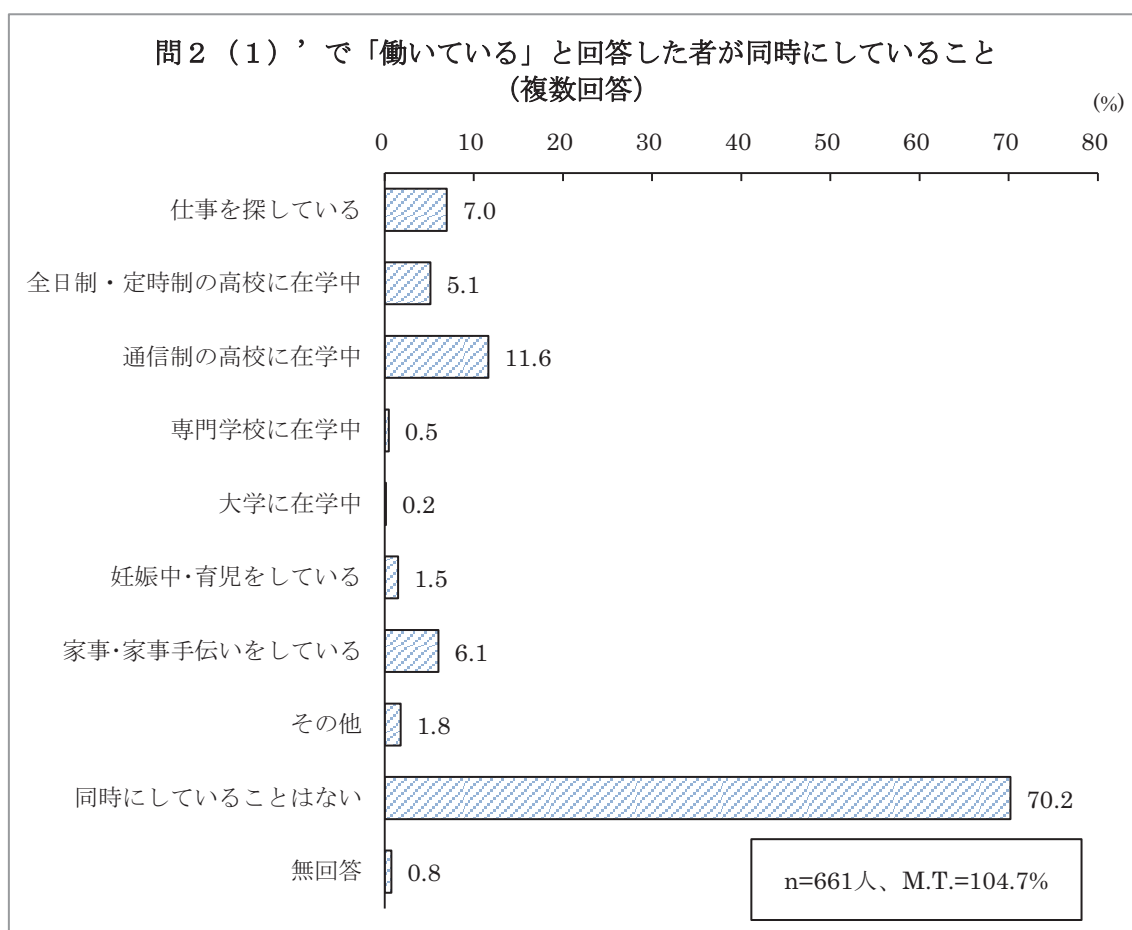
(2)「働いている」の内訳

①全体の内訳



「働いている」と回答した者の内訳は、「フリーター・パートなど」77.2%、「正社員・正職員など」17.1%となっている。

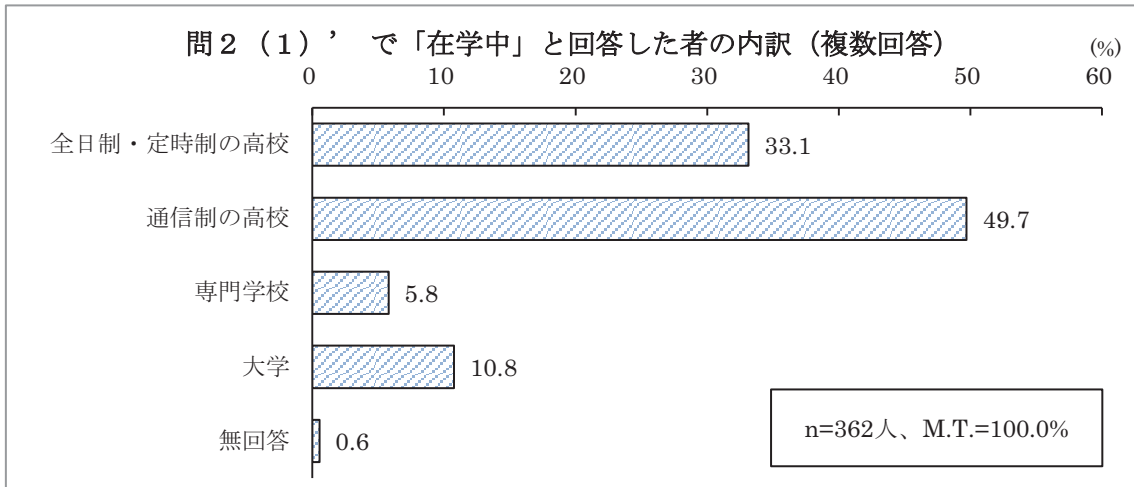
②「働いている」と回答した者が同時にしていること



現在「働いている」者のうち、「同時にしていることはない」者は70.2%となっている。同時にしていることとしては、「通信制の高校に在学中」11.6%、「仕事を探している」7.0%、「家事・家事手伝いをしている」6.1%となっている。

(3) 「在学中」の内訳

①全体の内訳



「在学中」と回答した者の内訳は、「通信制の高校」49.7%、「全日制・定時制の高校」33.1%となっている。

②高校に在学中の者が「働いている」割合

	働いている	
		うち、働いている(フリーター・パートなど)
全日制・定時制の高校に在学中 (n=120)	28.3% (n=34)	91.2% (n=31) 31/34
通信制の高校に在学中 (n=180)	42.8% (n=77)	89.6% (n=69) 69/77
高校に在学中 (n=300)	37.0% (n=111)	90.1% (n=100) 100/111

(4) 「問4(4) 高校を辞めた時点での将来の見通し」と「問2(1) 現在していること」の関係

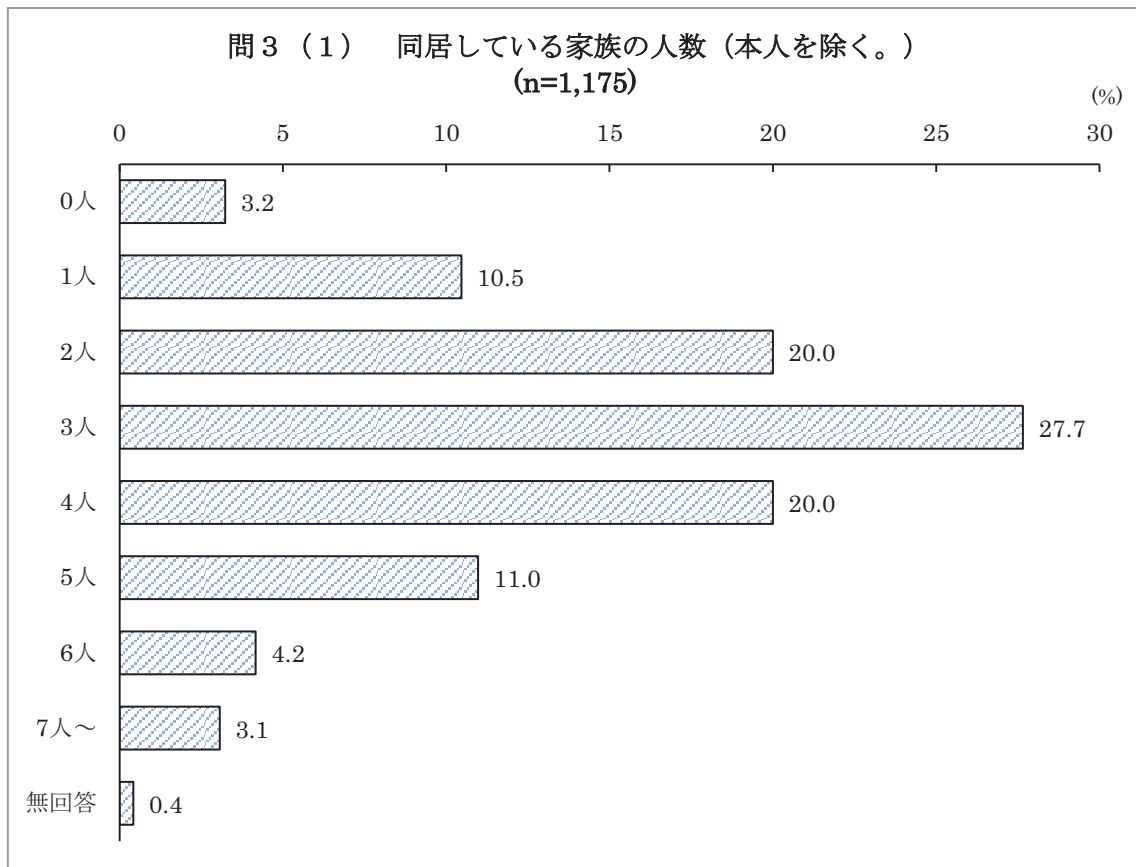
高校を辞めた時点での将来の見通し (上位4つ)	現在していること(複数回答) (上位3つ)	n	割合
アルバイトとして働くつもりだった (n=409、回答者全体の35.9%)	①働いている(フリーター・パートなど)	n=253	61.9%
	②仕事を探している	n=73	17.8%
	③家事・家事手伝いをしている	n=48	11.7%
別の高校に再入学するつもりだった (n=269、回答者全体の23.6%)	①働いている(フリーター・パートなど)	n=105	39.0%
	②高校に在学中(通信制。休学中も含む。)	n=103	38.3%
	③高校に在学中 (全日制・定時制。休学中も含む。)	n=80	29.7%
正社員として働くつもりだった (n=126、回答者全体の11.1%)	①働いている(正社員・正職員など)	n=53	42.1%
	②働いている(フリーター・パートなど)	n=39	31.0%
	③仕事を探している	n=17	13.5%
どうしていかかわからなかった (n=101、回答者全体の8.9%)	①働いている(フリーター・パートなど)	n=36	35.6%
	②高校に在学中(通信制。休学中も含む。)	n=19	18.8%
	③仕事を探している	n=17	16.8%
	家事・家事手伝いをしている	n=17	16.8%

高校を辞めた時点での将来の見通しと現在していることとに一定の関連性が見られる。

3 同居している家族

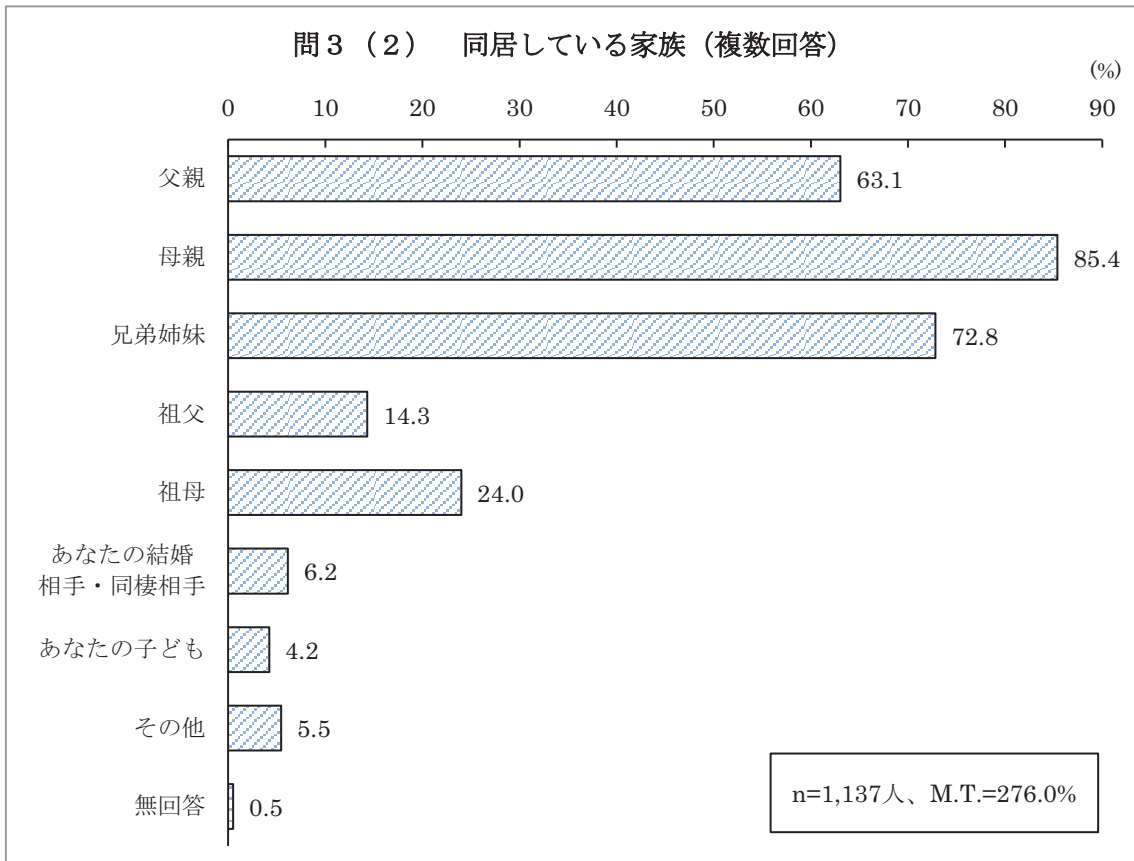
(1) 全体の分布

①同居している家族の人数



本人を除いた同居している家族の人数は、「3人」が最も多く 27.7%であり、同居している家族の人数が0人である（ひとり暮らしをしている）者は3.2%となっている。

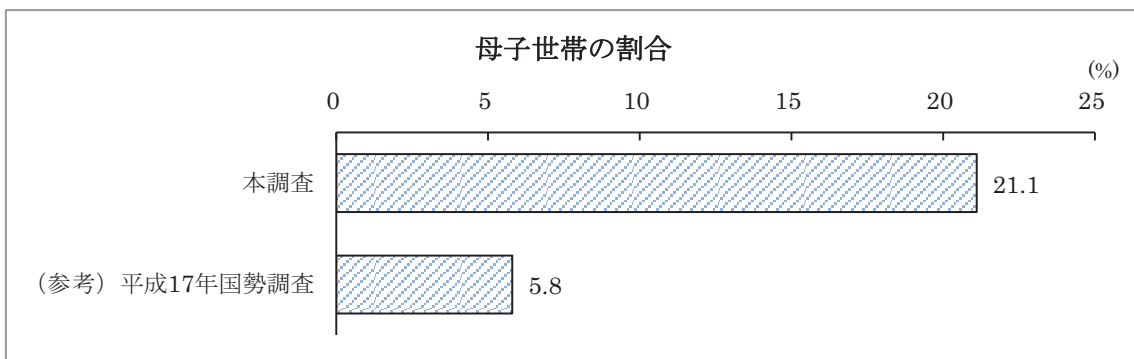
②同居している家族



同居している家族は、「母親」85.4%、「兄弟姉妹」72.8%、「父親」63.1%となっている。

(2) ひとり親世帯の割合

①母子世帯 (n=240)

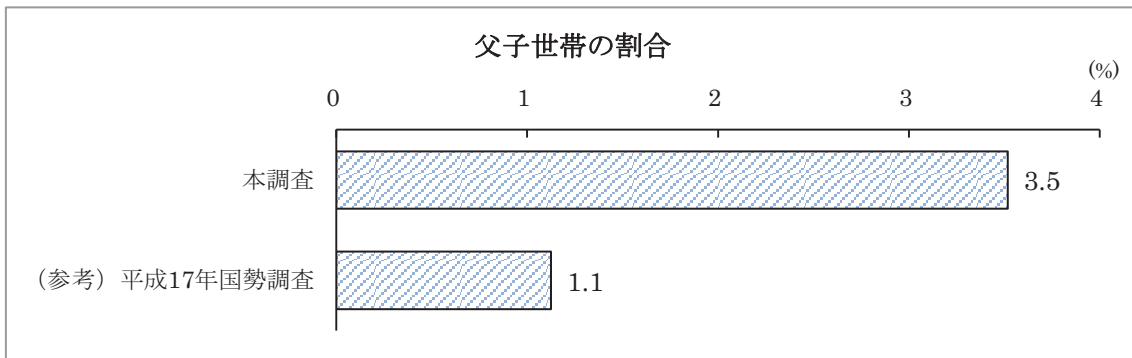


本調査の対象者に占める母子世帯の割合は21.1%であり、平成17年国勢調査（総務省統計局）に基づく15歳以上20歳未満の子どもがいる親族世帯に占める母子世帯の割合（注1）の約3.6倍となっている。

(※) 本調査では、問3(2)の「同居している家族」において、「母親」のみ又は「母親」及び「兄弟姉妹」のみを選択した者を母子世帯とした（注2）。

(参考) 問3(2)において、「祖父母」（片方のみを含む。）及び「母親」又は「祖父母」（片方のみを含む。）、「母親」及び「兄弟姉妹」を選択した者（n=51、4.5%）

②父子世帯 (n=40)



本調査の対象者に占める父子世帯の割合は3.5%であり、平成17年国勢調査（総務省統計局）に基づく15歳以上20歳未満の子どもがいる親族世帯に占める父子世帯の割合（注1）の約3.2倍となっている。

（※）本調査では、問3（2）の「同居している家族」において、「父親」のみ又は「父親」及び「兄弟姉妹」のみを選択した者を父子世帯とした（注2）。

（参考）問3（2）において、「祖父母」（片方のみを含む。）及び「父親」又は「祖父母」（片方のみを含む。）、「父親」及び「兄弟姉妹」を選択した者（n=24、2.1%）

（注1）本報告書における「（参考）平成17年国勢調査」の母子（父子）世帯の割合の算出方法について

$$\frac{\text{15歳以上20歳未満の子どもしかいない母子(父子)世帯数}}{\text{15歳以上20歳未満の子どもがいる親族世帯数}}$$

これにより、

母子世帯の割合 $168,189 \text{ 世帯} \div 2,898,230 \text{ 世帯} \approx 5.8\%$

父子世帯の割合 $32,607 \text{ 世帯} \div 2,898,230 \text{ 世帯} \approx 1.1\%$

と算出した。

（注2）本調査の母子（父子）世帯の割合の算出方法について

$$\frac{\text{母子(父子)世帯数(※)}}{\text{有効回答数 - \{ (ひとり暮らしの者の数) + (無効回答者数) \}}}$$

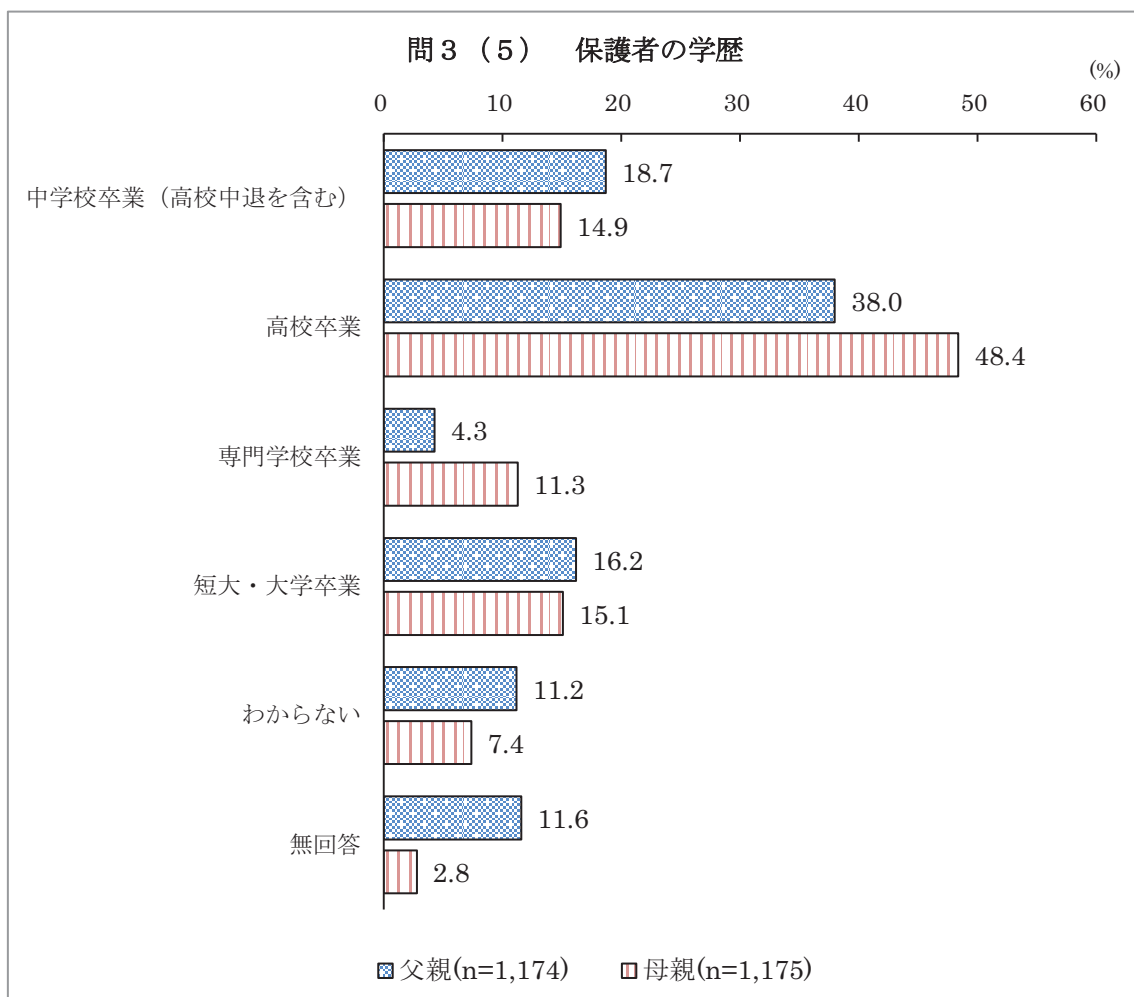
これにより、

母子世帯の割合 $240 \text{ 人} \div 1,137 \text{ 人} \approx 21.1\%$

父子世帯の割合 $40 \text{ 人} \div 1,137 \text{ 人} \approx 3.5\%$

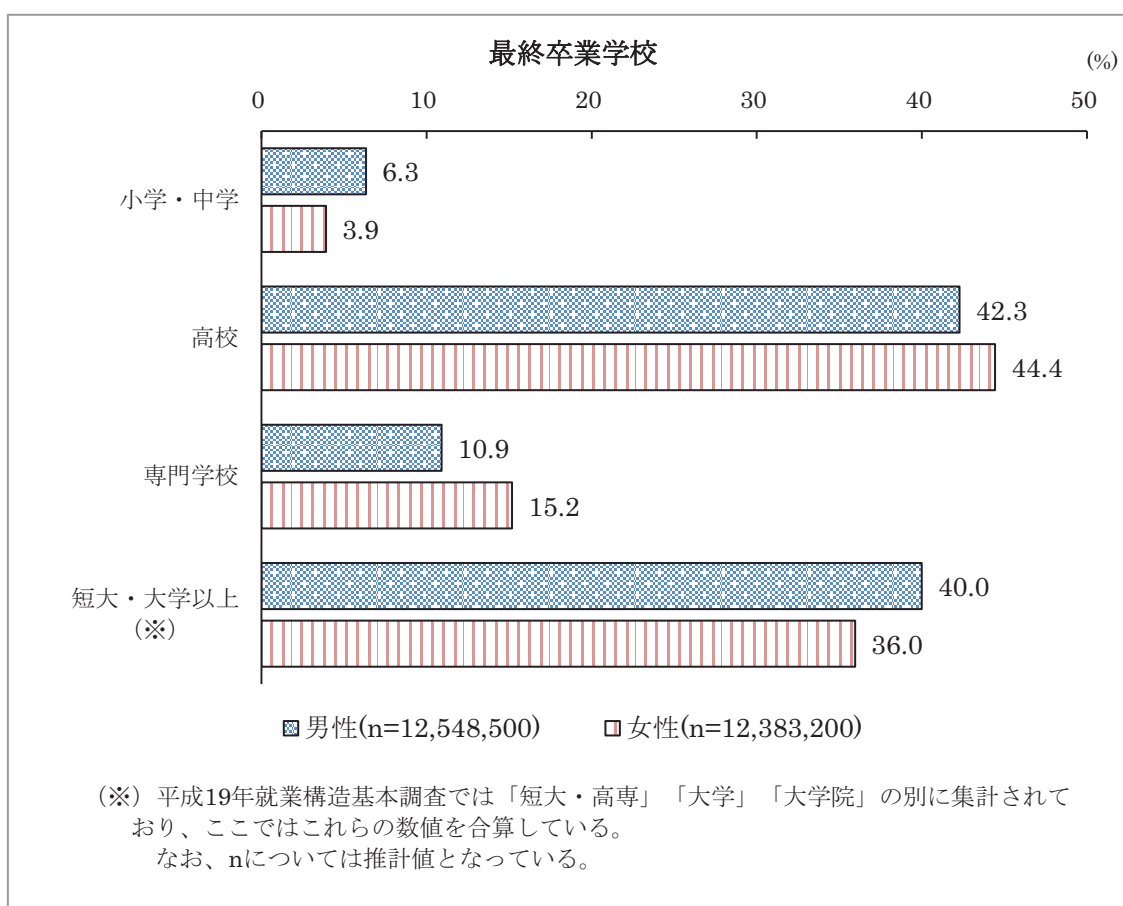
と算出した。

4 保護者の学歴



保護者の学歴は、「高校卒業」が最も多く、父親 38.0%、母親 48.4%となっている。「短大・大学卒業」は、父親 16.2%、母親 15.1%となっている。

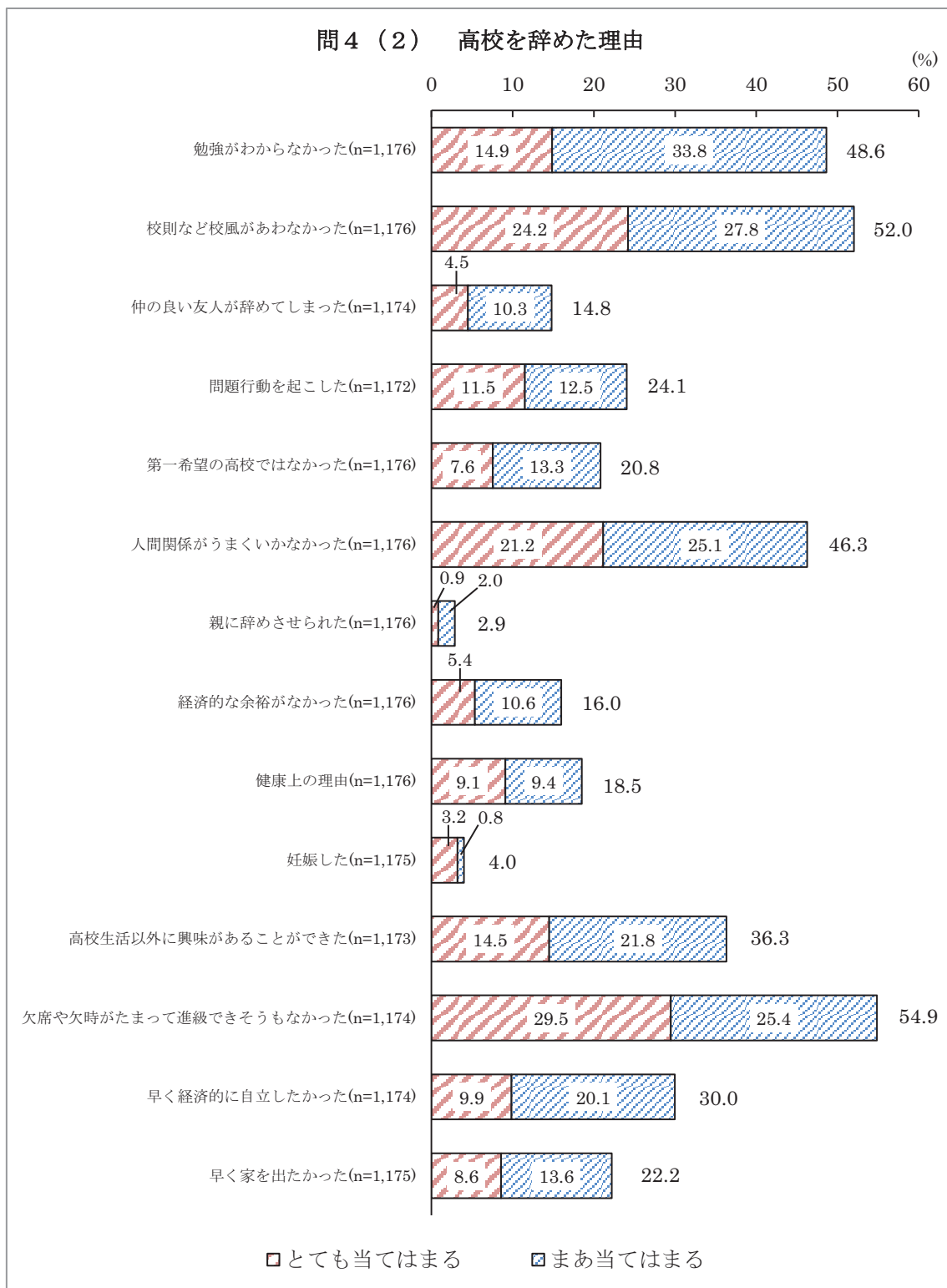
(参考) 平成 19 年就業構造基本調査に見る 35 歳から 49 歳までの学歴分布



就業構造基本調査（平成 19 年、総務省統計局）においては、本調査対象者の保護者世代とほぼ同世代の者（35 歳～49 歳）の最終卒業学校は、「短大・高専」「大学」「大学院」を合わせると男性 40.0%、女性 36.0%となっている。

ただし、①就業構造基本調査は本人が回答しているのに対し、本調査は調査対象者である子どもが保護者の学歴を回答していること、②本調査では保護者の学歴を「わからない」（父親 11.2%、母親 7.4%）と回答した者や「無回答」（父親 11.6%、母親 2.8%）の者が一定数いること、③保護者の学歴についての子どもの認識が正しいか検証できないことから、就業構造基本調査と本調査との単純な比較はできないことに留意する必要がある。

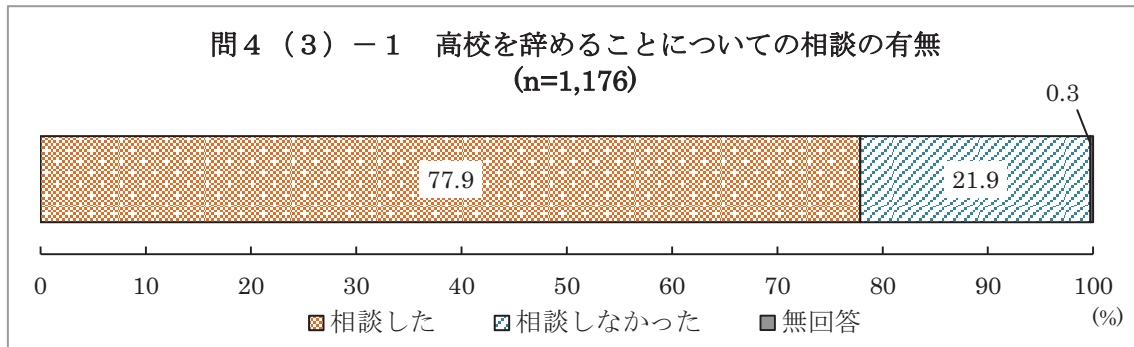
5 高校を辞めた理由（「とても当てはまる」と「まあ当てはまる」の計）



高校を辞めた理由は、「欠席や欠時がたまって進級できそうもなかったから」54.9%、「校則など校風があわなかったから」52.0%、「勉強がわからなかったから」48.6%、「人間関係がうまくいかなかったから」46.3%の順となっている。

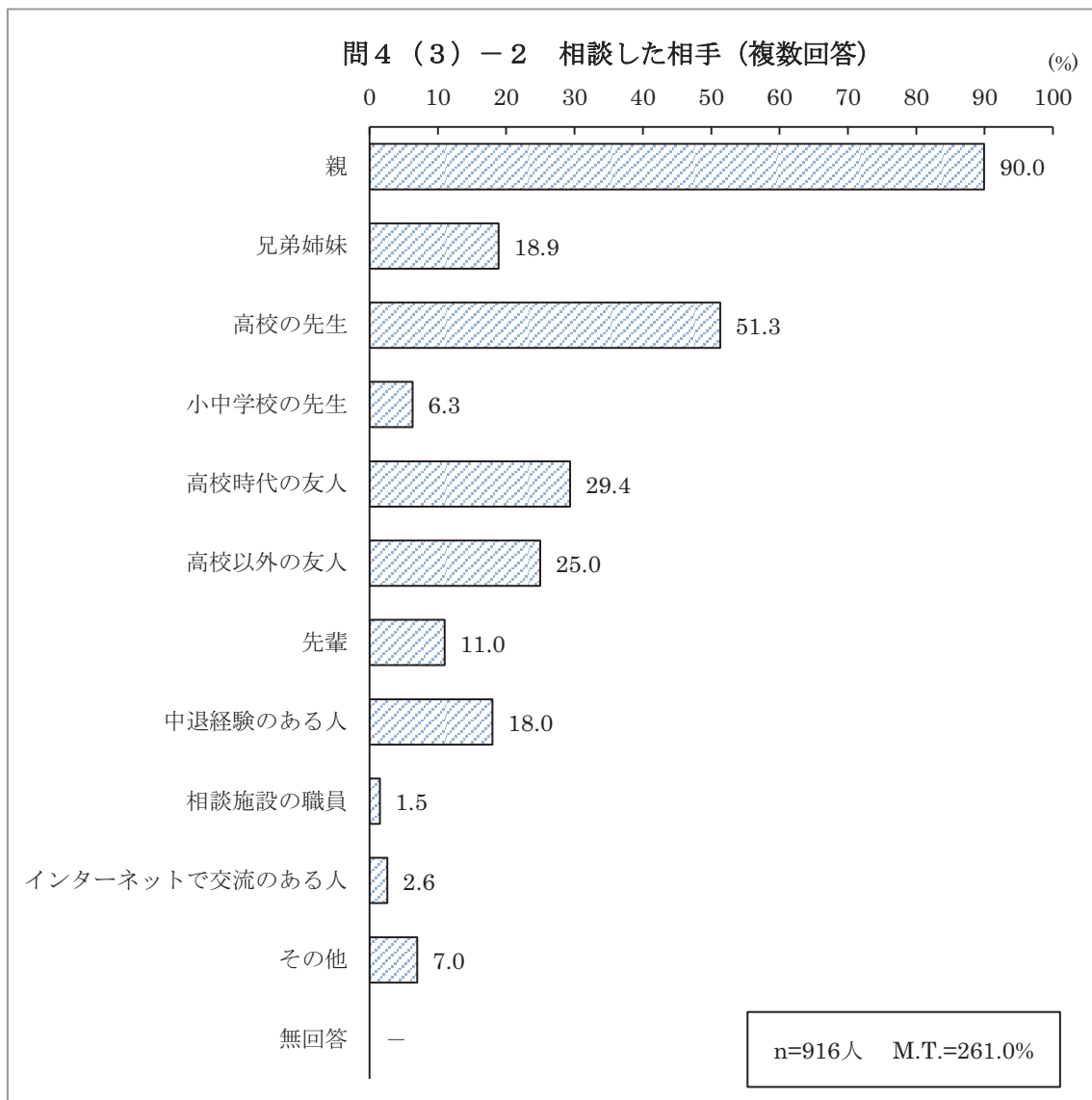
6 高校を辞めることについての相談

(1) 全体の分布



高校を辞めることについての相談は、「相談した」77.9%となっている。

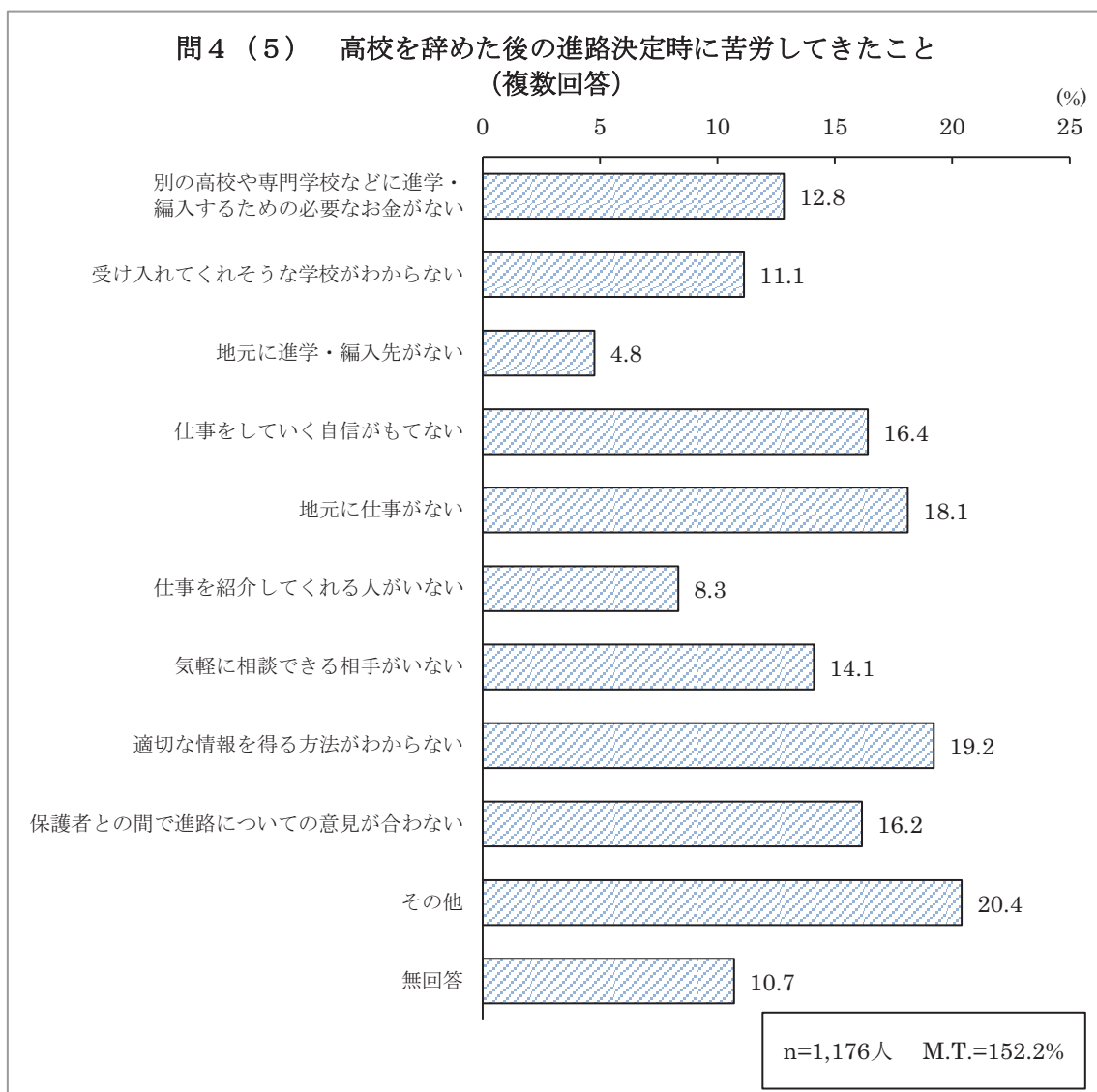
(2) 「相談した」場合の相談した相手



相談した相手は、「親」90.0%、「高校の先生」51.3%となっている。

7 高校を辞めた後の進路決定時に苦労してきたこと

(1) 全体の分布



高校を辞めた後の進路決定時に苦労してきたことは、「適切な情報を得る方法がわからない」19.2%、「地元の仕事がない」18.1%、「仕事をしていく自信がもてない」16.4%、「保護者との間で進路についての意見が合わない」16.2%の順となっている。

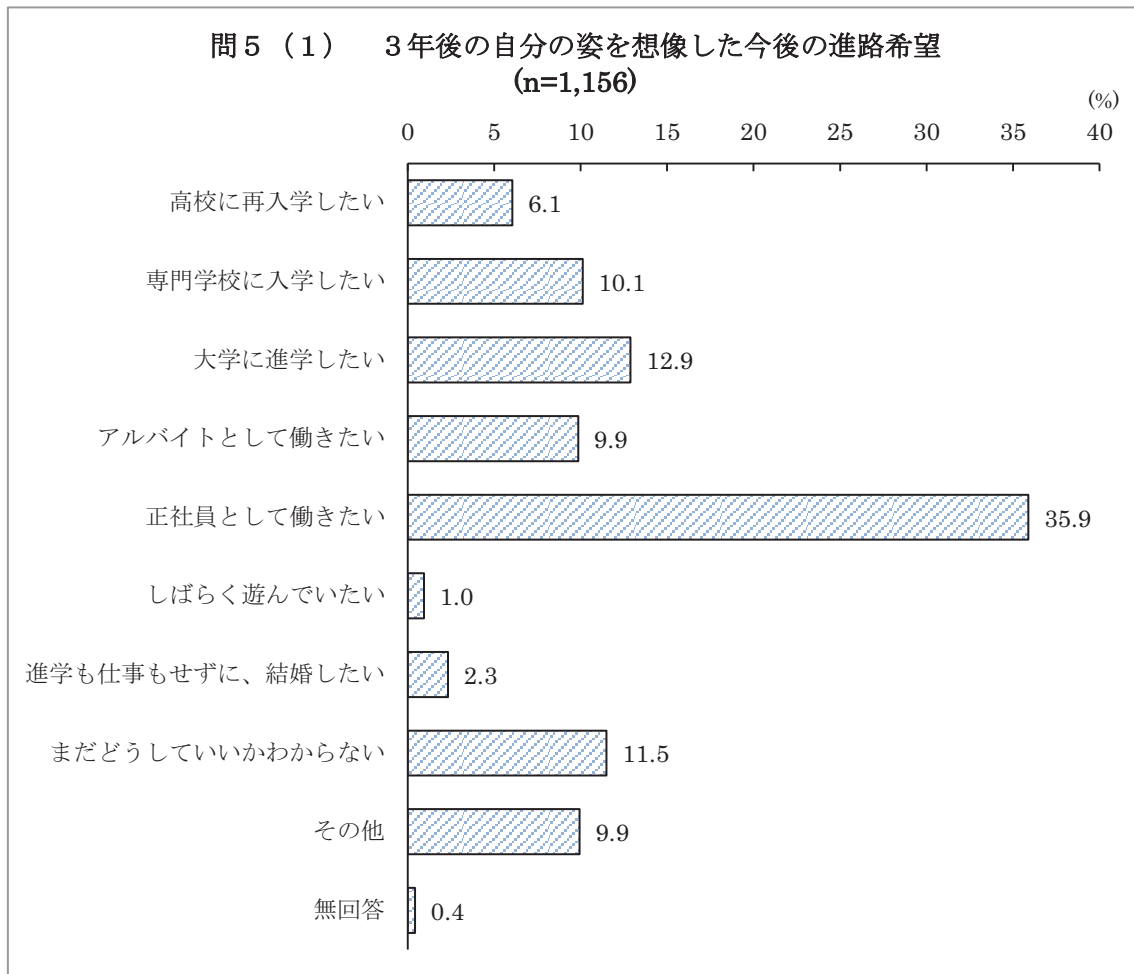
(2) 「問4 (4) 高校を辞めた時点での将来の見通し」と「問4 (5) 高校を辞めた後の進路決定時に苦労してきたこと」との関係

高校を辞めた時点での将来の見通し (上位4つ)	高校を辞めた後の進路決定時に 苦労してきたこと(複数回答) (上位3つ(「その他」を除く。))		
アルバイトとして働くつもりだった (n=409、回答者全体の35.9%)	①地元の仕事がない	n=99	24.2%
	②仕事をしていく自信がもてない	n=83	20.3%
	③適切な情報を得る方法がわからない	n=71	17.4%
別の高校に再入学するつもりだった (n=269、回答者全体の23.6%)	①受け入れてくれそうな学校がわからない	n=54	20.1%
	②適切な情報を得る方法がわからない	n=53	19.7%
	③別の高校や専門学校などに進学・編入するための必要なお金がない	n=46	17.1%
正社員として働くつもりだった (n=126、回答者全体の11.1%)	①地元の仕事がない	n=37	29.4%
	②保護者との間で進路についての意見が合わない	n=18	14.3%
	③適切な情報を得る方法がわからない	n=16	12.7%
どうしていいかわからなかった (n=101、回答者全体の8.9%)	①仕事をしていく自信がもてない	n=35	34.7%
	②適切な情報を得る方法がわからない	n=29	28.7%
	③気軽に相談できる相手がいらない	n=28	27.7%

高校を辞めた時点での将来の見通しを「アルバイトとして働くつもりだった」及び「正社員として働くつもりだった」と回答した者では、高校を辞めた後の進路決定時に苦労してきたこととして「地元の仕事がない」との回答が最も多かった。

8 3年後の自分の姿を想像した今後の進路希望

(1) 全体の分布



3年後の自分の姿を想像した今後の進路希望は、「正社員として働きたい」が最も多く35.9%となっている。

(2) 「問2 (1) 現在していること」と「問5 (1) 3年後の自分の姿を想像した今後の進路希望」との関係

現在していること(複数回答) (上位5つ)	3年後の自分の姿を想像した今後の進路希望(※) (上位3つ)		
働いている(フリーター・パートなど) (n=510、回答者全体の43.4%)	①正社員として働きたい	n=206	41.1%
	②まだどうしていいかわからない	n=65	13.0%
	③アルバイトとして働きたい	n=53	10.6%
		(※) n=501	
高校に在学中(通信制) (n=180、回答者全体の15.3%)	①正社員として働きたい	n=51	29.0%
	②大学に進学したい	n=40	22.7%
	③まだどうしていいかわからない	n=39	22.2%
		(※) n=176	
仕事を探している (n=160、回答者全体の13.6%)	①正社員として働きたい	n=58	36.5%
	②アルバイトとして働きたい	n=30	18.9%
	③まだどうしていいかわからない	n=20	12.6%
		(※) n=159	
家事・家事手伝いをしている (n=129、回答者全体の11.0%)	①正社員として働きたい	n=32	25.2%
	②アルバイトとして働きたい	n=27	21.3%
	③専門学校に入学したい	n=18	14.2%
		(※) n=127	
高校に在学中(全日制・定時制) (n=120、回答者全体の10.2%)	①専門学校に入学したい	n=33	28.0%
	②大学に進学したい	n=30	25.4%
	③正社員として働きたい	n=29	24.6%
		(※) n=118	

現在していることと3年後の自分の将来を想像した今後の進路希望について比較したところ、現在「高校に在学中(全日制・定時制)」と回答した者を除いて、今後の進路希望としては「正社員として働きたい」が最も多かった。

また、現在「高校に在学中(全日制・定時制)」と回答した者は、今後の進路希望として53.4%が「専門学校に入学したい」又は「大学に進学したい」と回答している。

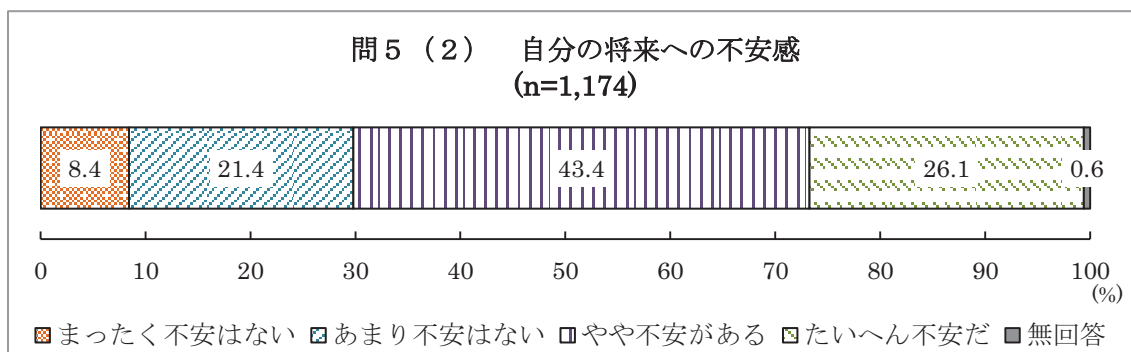
(※) 「問2 (1) 現在していること」を回答した者全てが「問5 (1) 3年後の自分の姿を想像した今後の進路希望」に有効回答をしているものではない。

例えば、「現在していること」として「働いている(フリーター・パートなど)」と回答した者は510人であるが、このうち「3年後の自分の姿を想像した今後の進路希望」に回答した者は501人である。「3年後の自分の姿を想像した今後の進路希望」の上位3つの選択肢の回答率は、この501人を分母として算出している。

なお、「3年後の自分の姿を想像した今後の進路希望」の各選択肢の分母は「(※) n= 」として表記している。

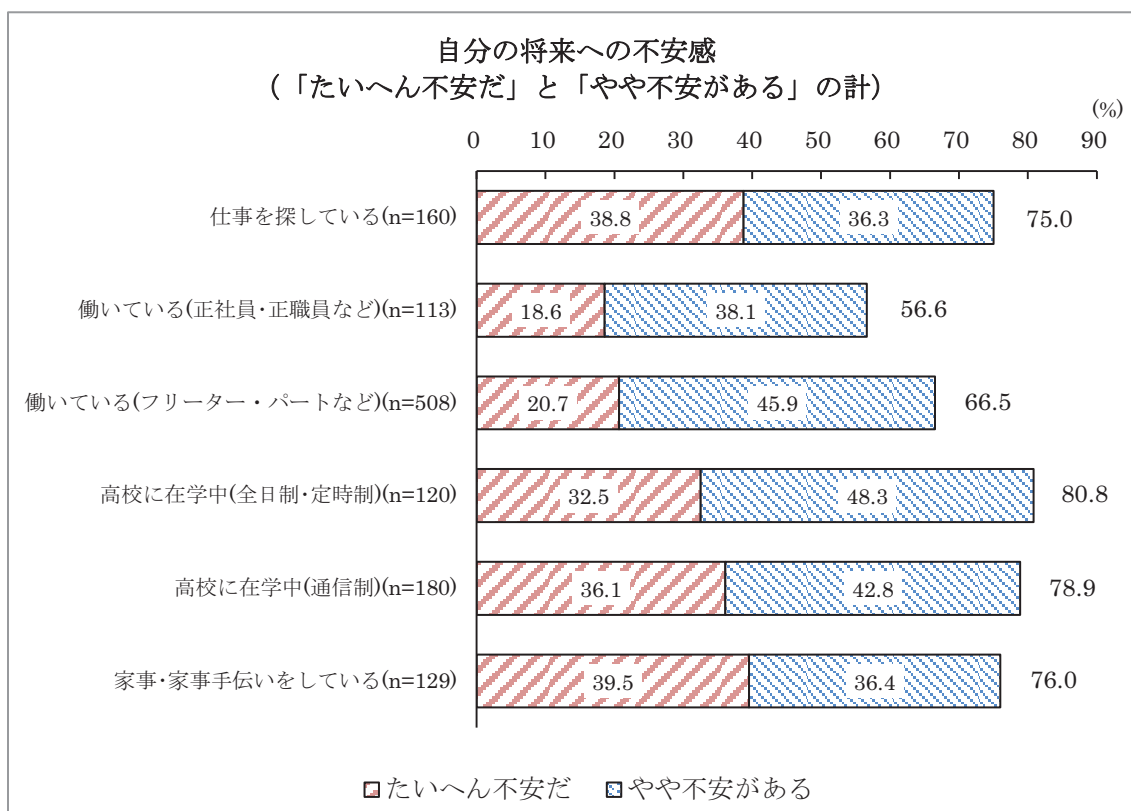
9 自分の将来への不安感

(1) 全体の分布



自分の将来への不安感は、「やや不安がある」(43.4%)、「たいへん不安だ」(26.1%)と回答した者の合計が69.6%となっている。

(2) 「問2 (1) 現在していること」(n=100以上のもののみ)と「問5 (2) 自分の将来への不安感」との関係

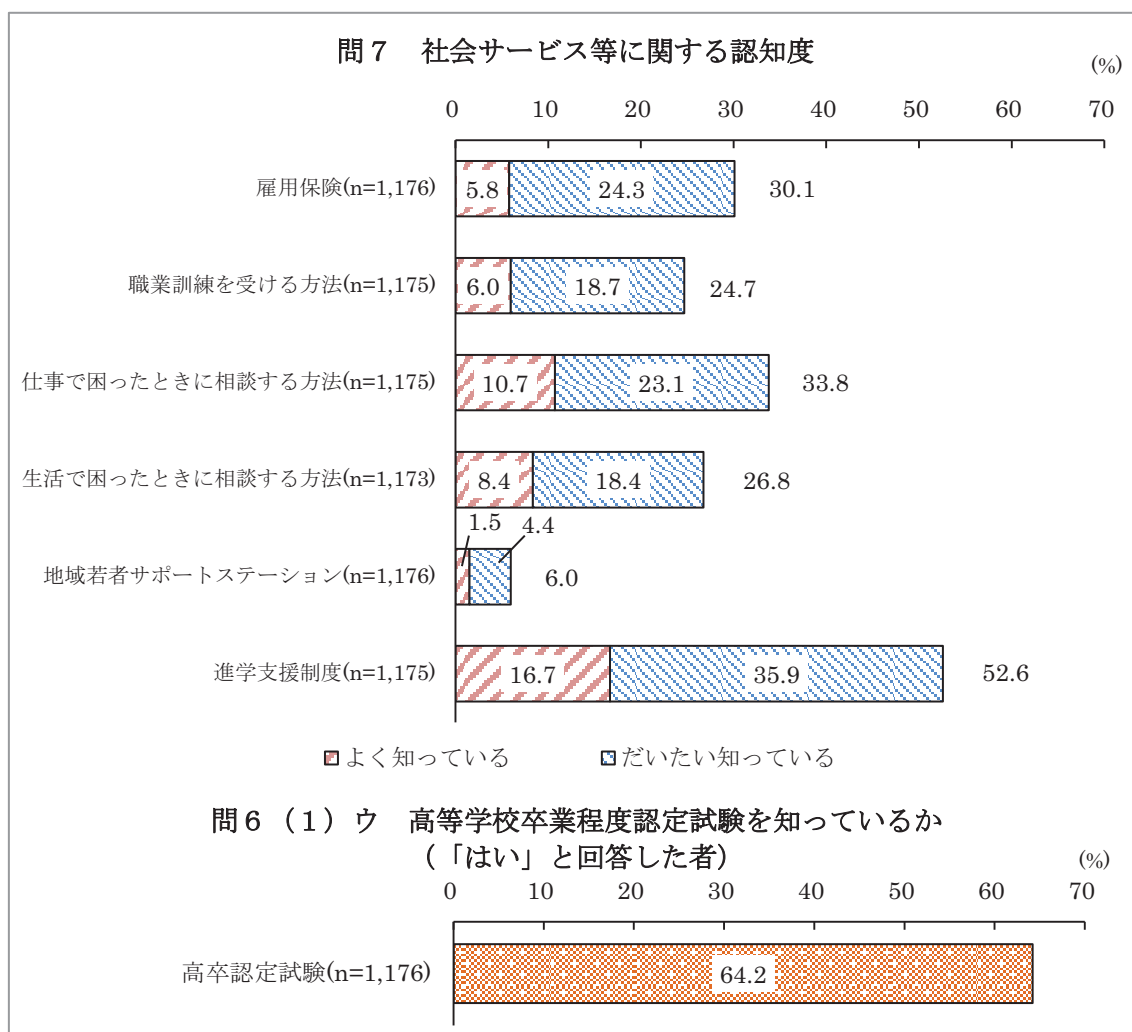


自分の将来への不安感は、現在「高校に在学中(全日制・定時制)」の者80.8%、「高校に在学中(通信制)」の者78.9%となっている。

一方で、現在「働いている(正社員・正職員など)」者は56.6%となっている。

10 社会サービス等に関する認知度

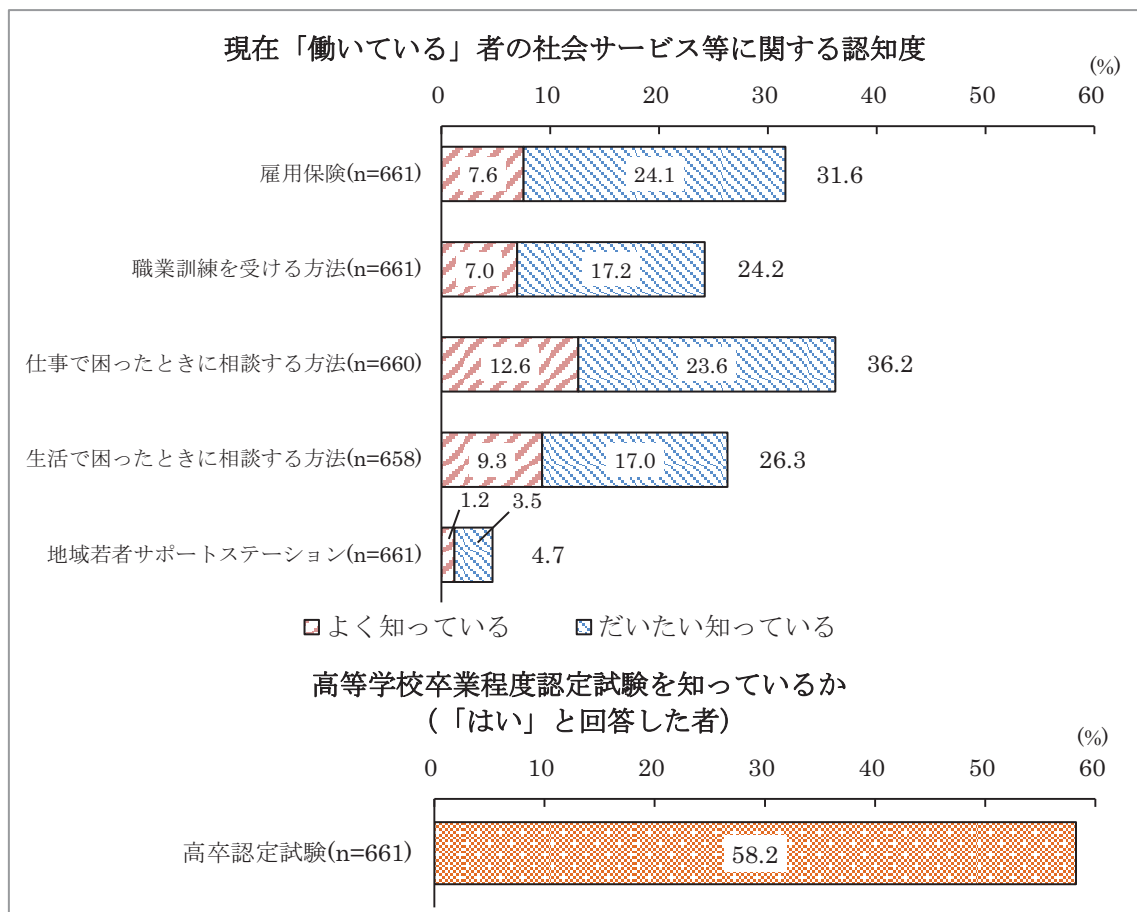
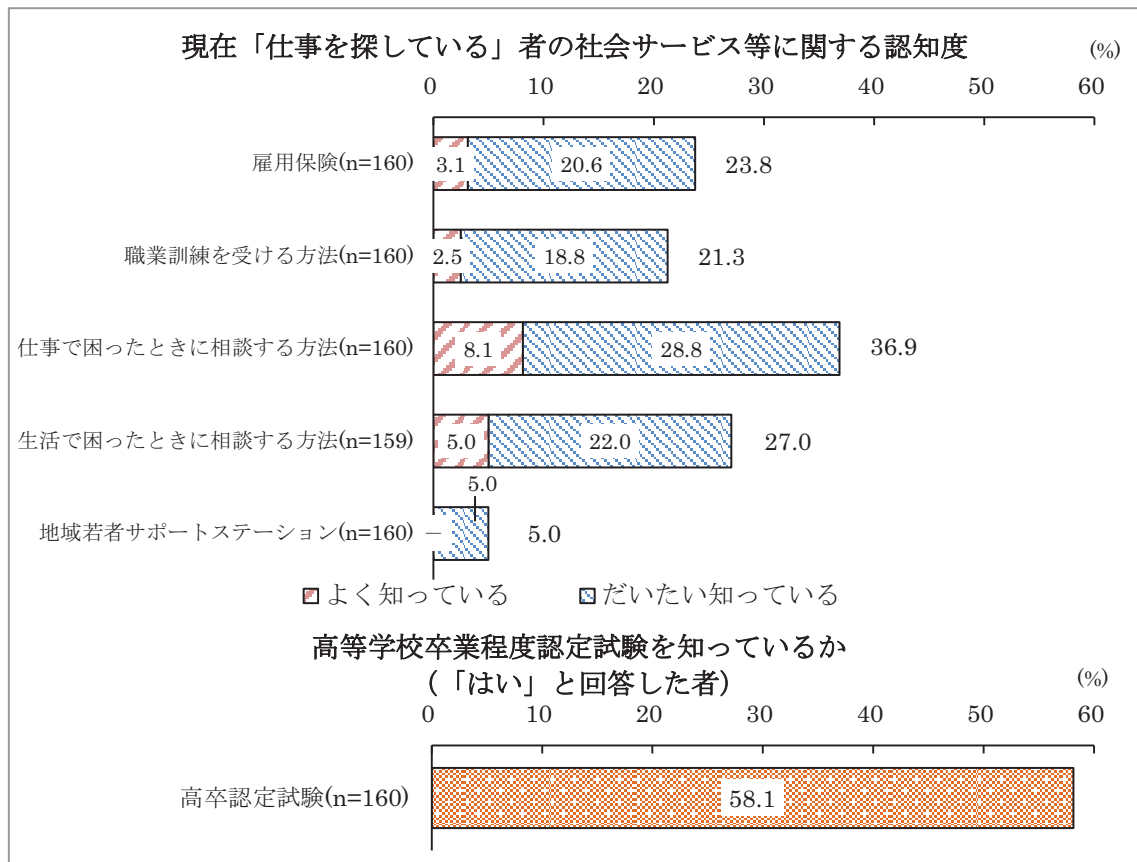
(1) 全体の分布

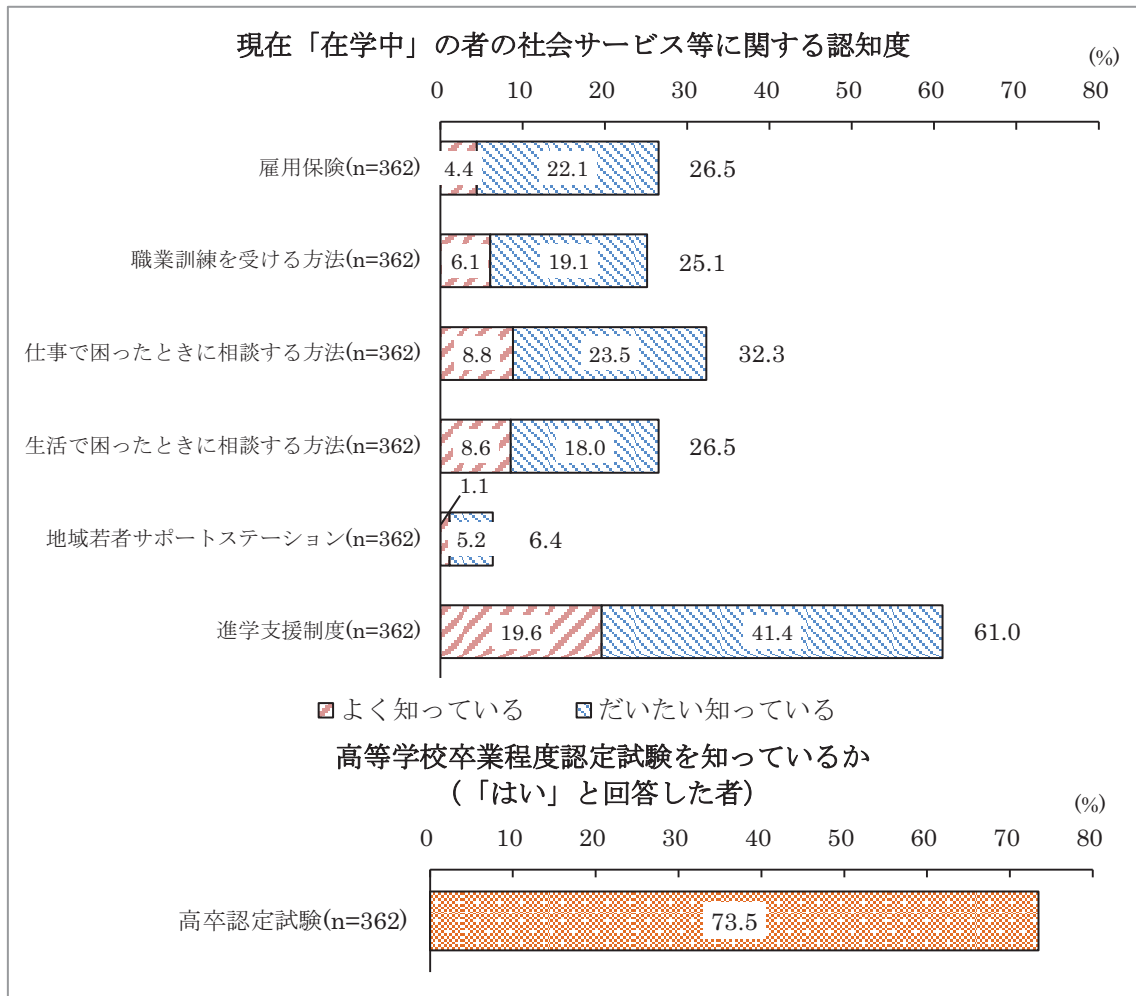


社会サービスに関する認知度（「よく知っている」と「だいたい知っている」との計）は、「進学支援制度」52.6%、「仕事で困ったときに相談する方法」33.8%となっている。

また、「高等学校卒業程度認定試験（高卒認定試験）を知っているか」は、「はい」64.2%となっている。

(2) 「問2(1) 現在していること」(p5(注)参照)で「仕事を探している」、「働いている」及び「在学中」に再カテゴリーされた者の社会サービス等に関する認知度



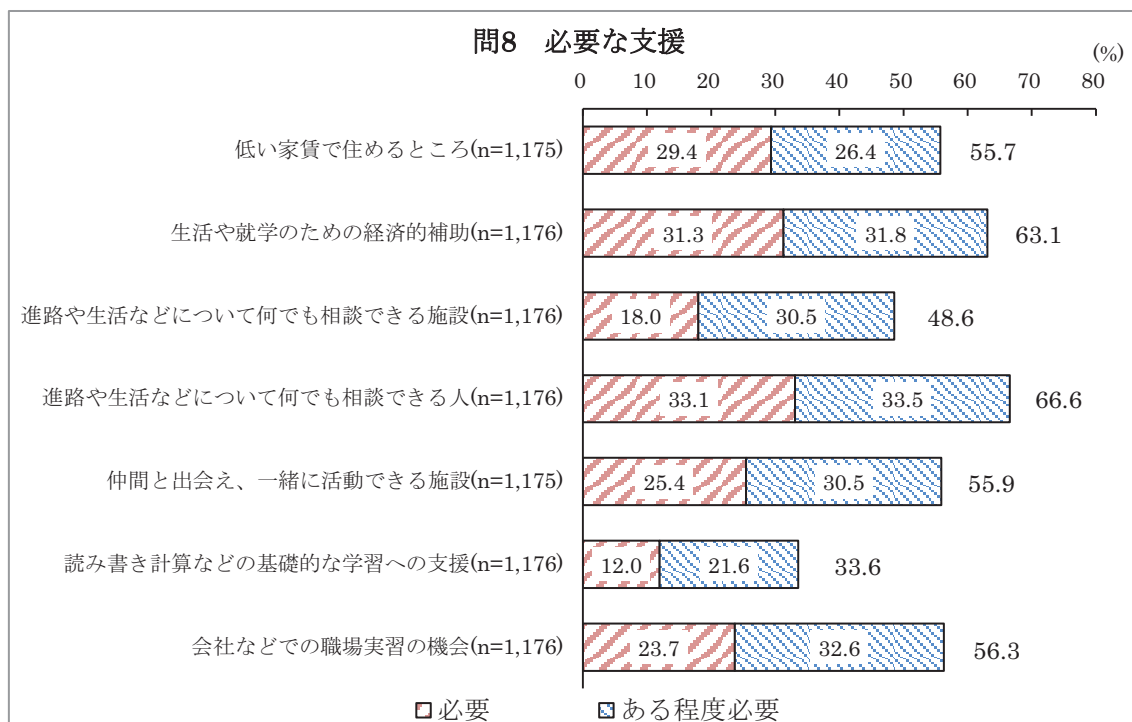


雇用保険に関する認知度は、現在「働いている」者 31.6%に対し、現在「仕事を探している」者 23.8%、「在学中」の者 26.5%となっている。

「高等学校卒業程度認定試験（高卒認定試験）を知っているか」は、現在「仕事を探している」者 58.1%、「働いている」者 58.2%に対し、現在「在学中」の者 73.5%となっている。

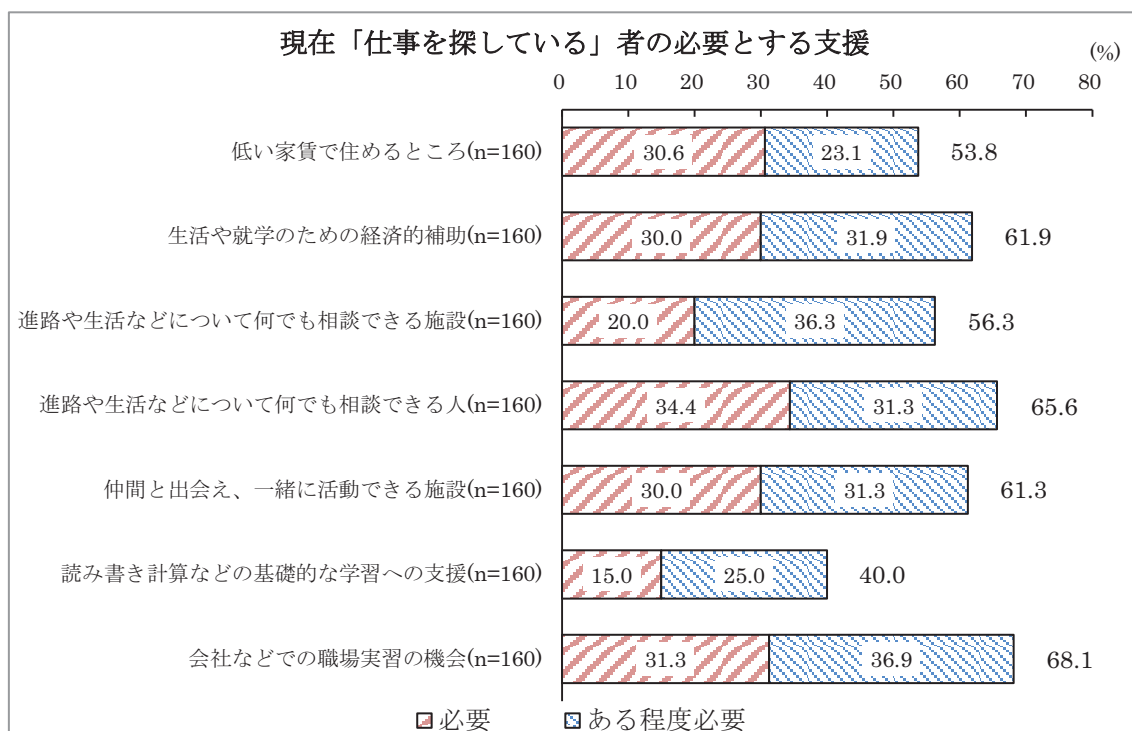
11 必要な支援（「必要」と「ある程度必要」の計）

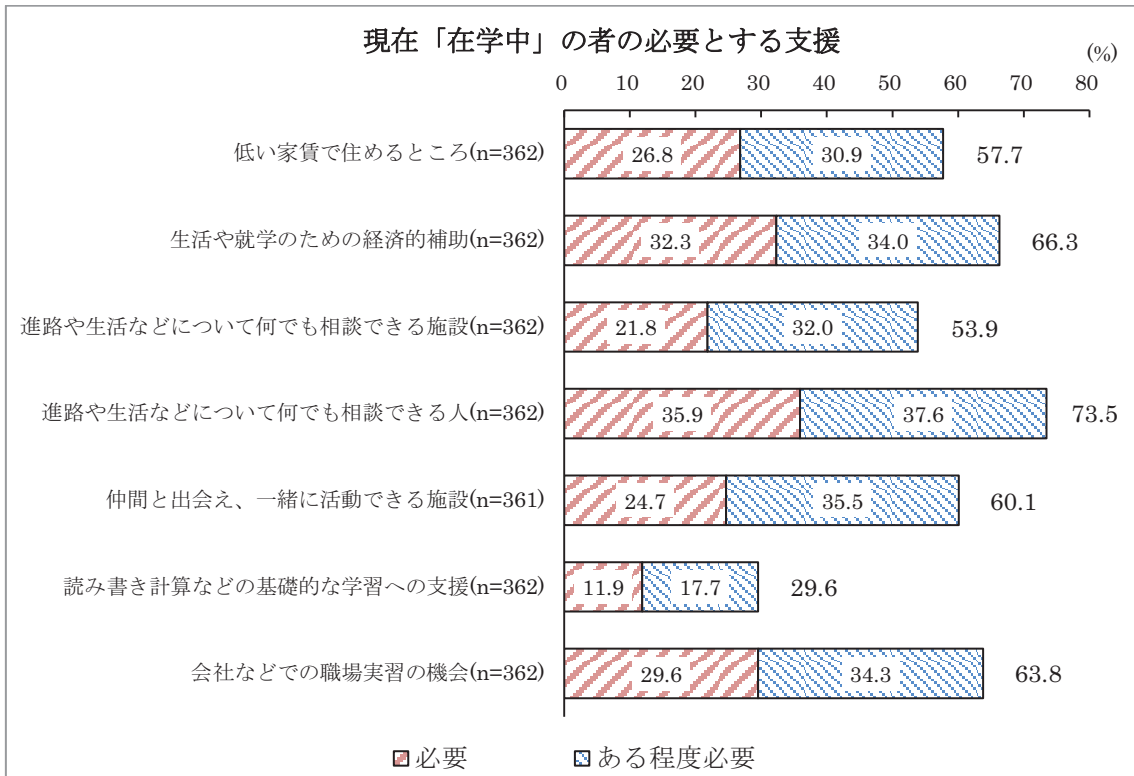
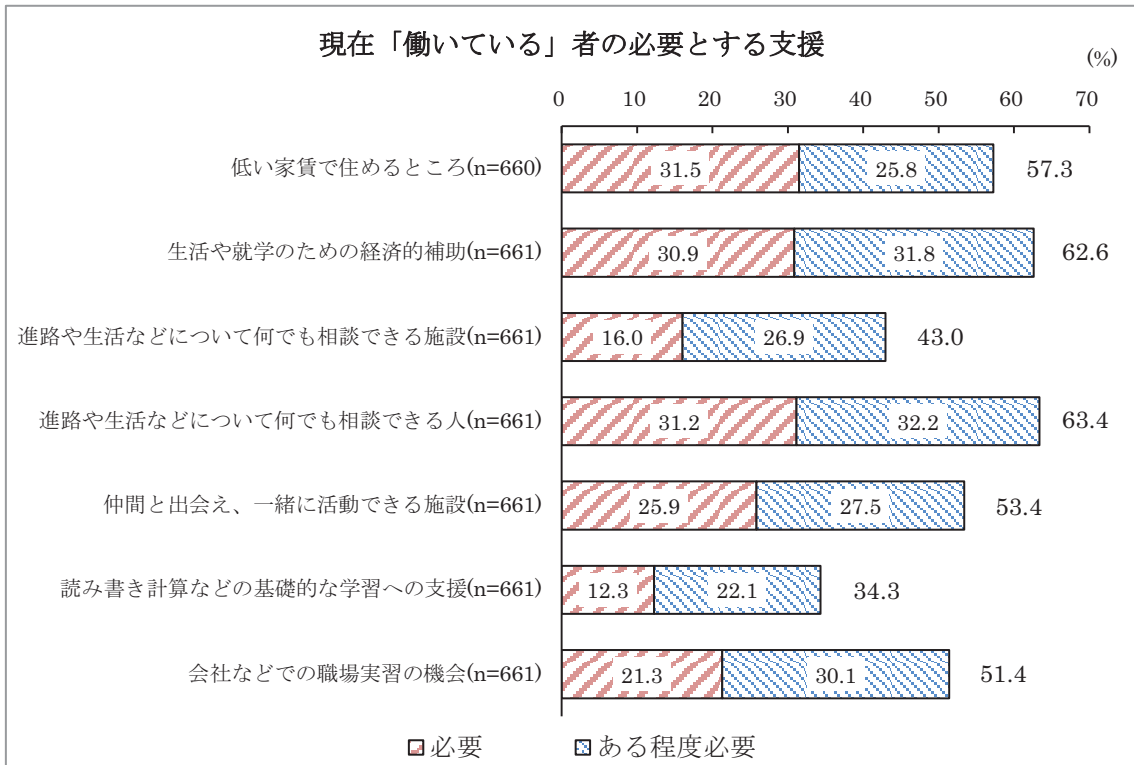
（1）全体の分布



必要な支援は、「進路や生活などについて何でも相談できる人」66.6%、「生活や就学のための経済的補助」63.1%となっている。一方で、「読み書き計算などの基礎的な学習への支援」は33.6%となっている。

（2）「問2（1）」現在していること」（p5（注）参照）で「仕事を探している」、「働いている」及び「在学中」と回答した者の必要とする支援

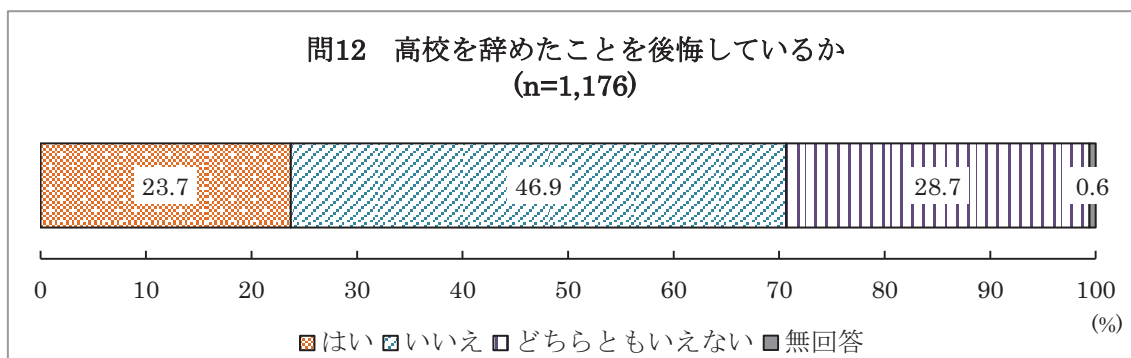




必要とする支援は、現在「仕事を探している」者では「会社などでの職場実習の機会」(68.1%)が最も多く、「働いている」者及び「在学中」の者では「進路や生活などについて何でも相談できる人」(「働いている」63.4%、「在学中」73.5%)が最も多くなっている。

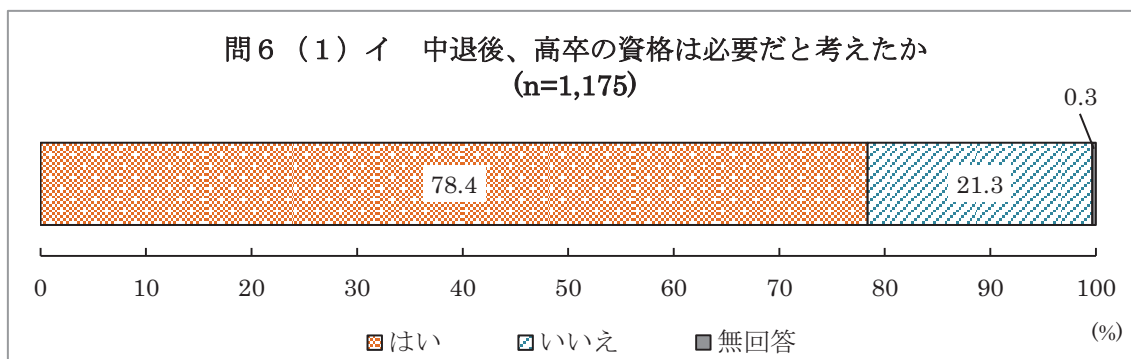
12 高校を辞めたことを後悔しているか

(1) 全体の分布



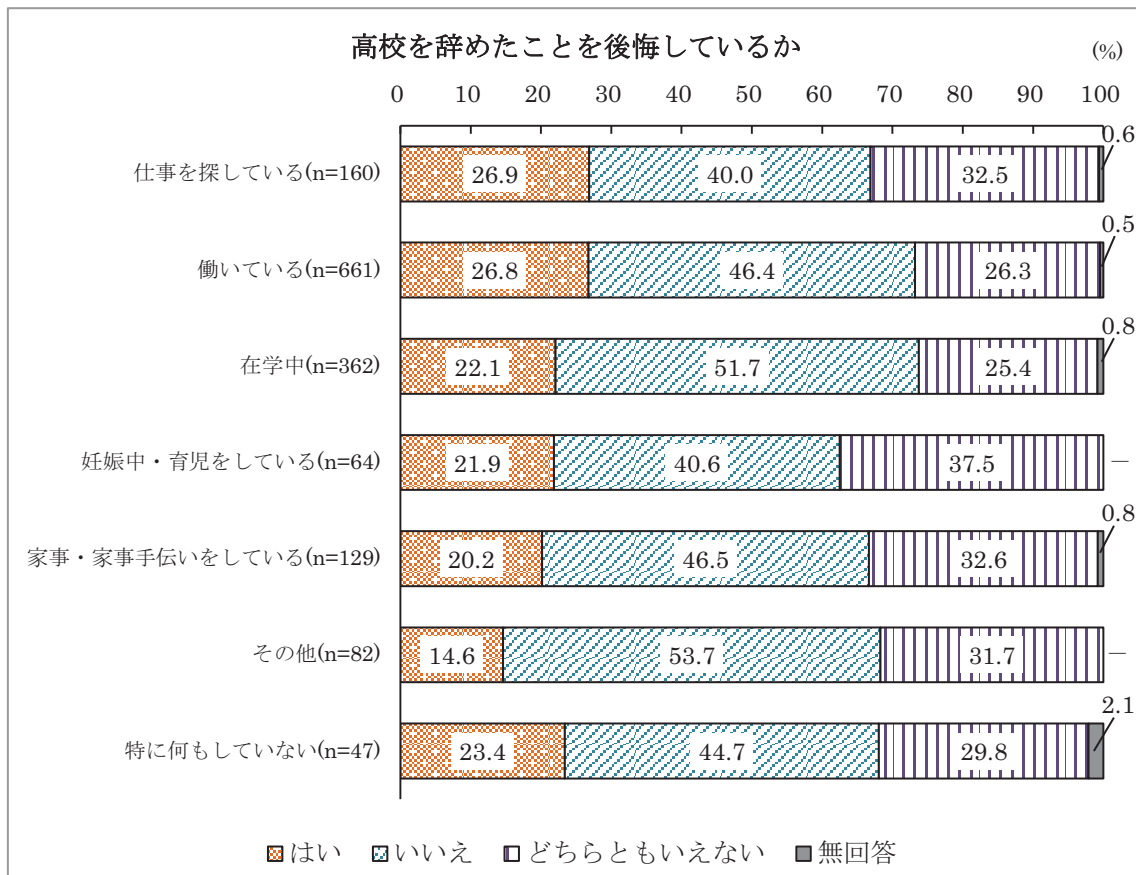
「高校を辞めたことを後悔しているか」は、「はい」23.7%、「いいえ」46.9%となっている。

(参考) 「問6 (1) イ 中退後、高卒の資格は必要だと考えたか」



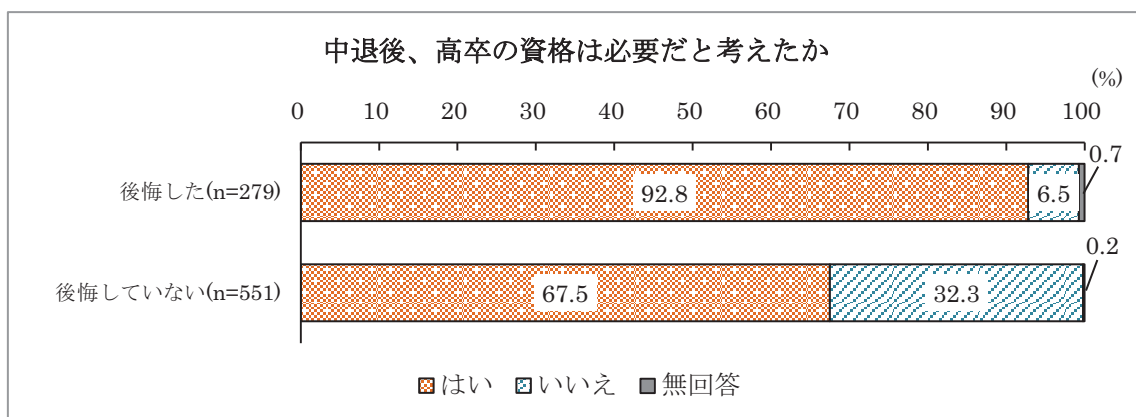
「中退後、高卒の資格は必要だと考えたか」は、「はい」78.4%となっている。

(2) 「問2 (1) 現在していること」と「問12 高校を辞めたことを後悔しているか」との関係



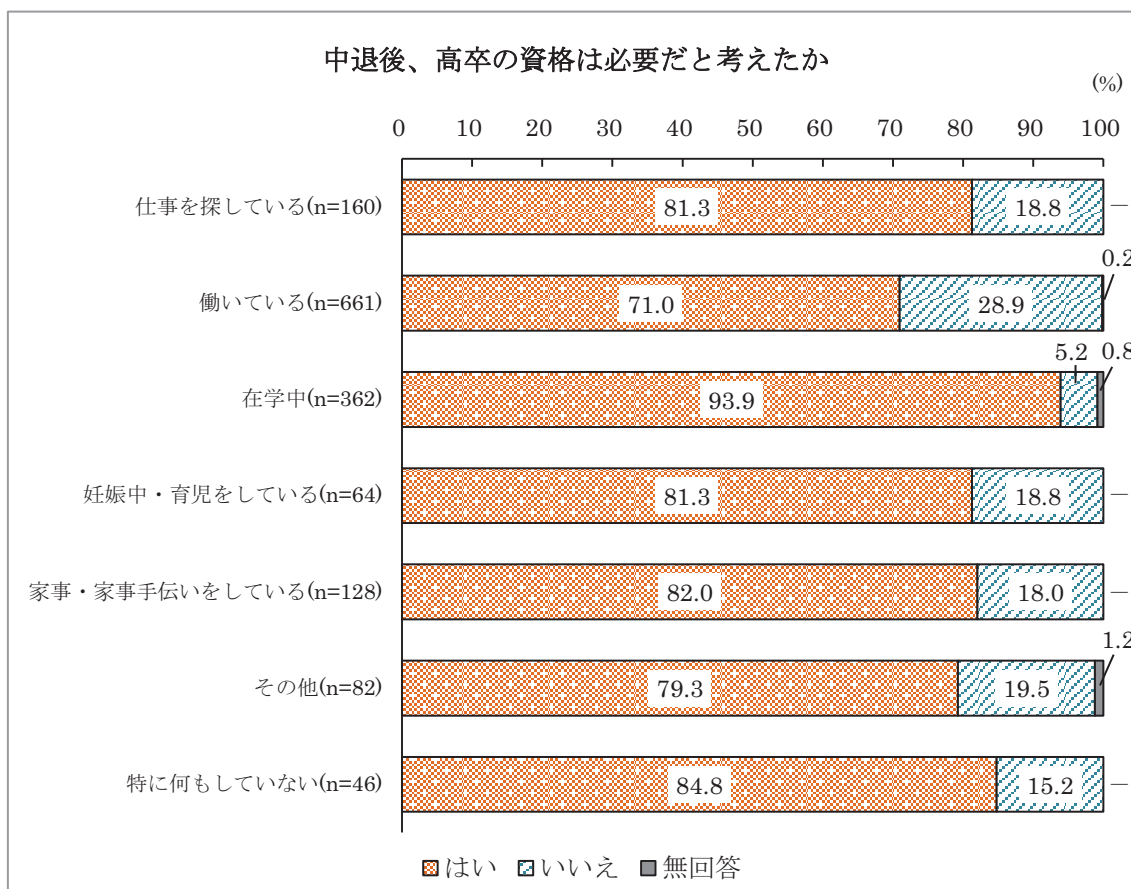
「高校を辞めたことを後悔しているか」は、現在「仕事を探している」者 26.9%、「働いている」者 26.8%、「特に何もしていない」者 23.4%、「在学中」の者 22.1%となっている。

(参考) 「問12 高校を辞めたことを後悔しているか」と「問6 (1) イ 中退後、高卒の資格は必要だと考えたか」との関係



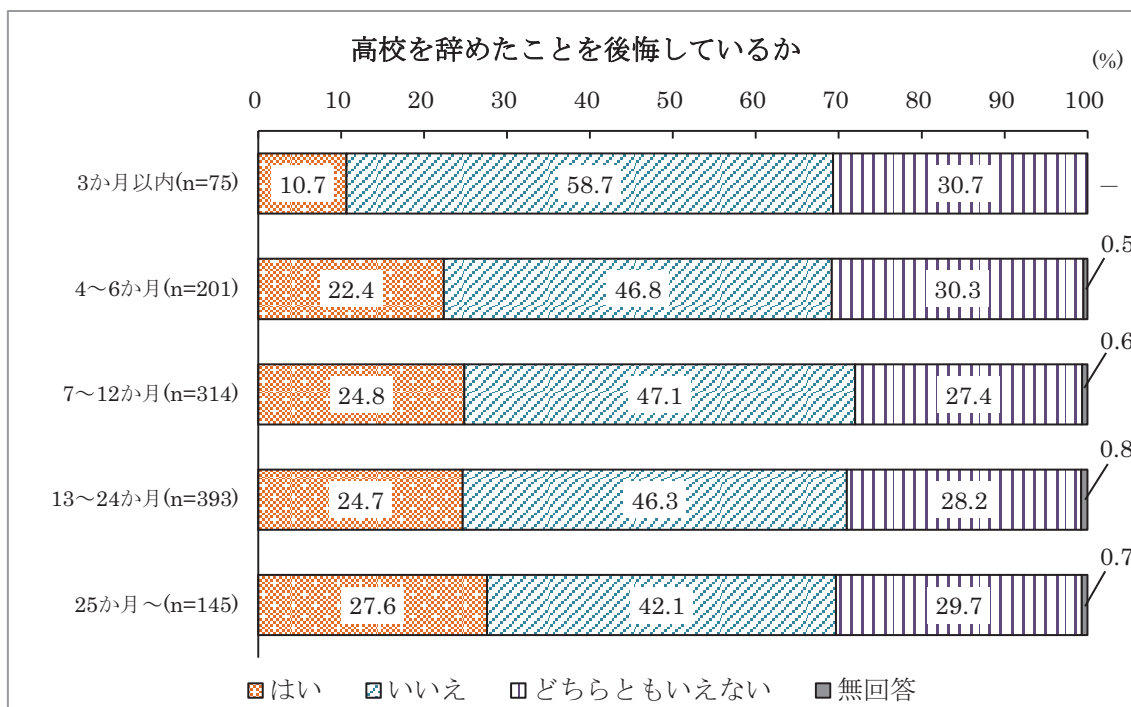
「中退後、高卒の資格は必要だと考えたか」は、高校を辞めたことを後悔していない者のうち、67.5%が「はい」と回答している。

(参考)「問2(1) 現在していること」と「問6(1)イ 中退後、高卒の資格は必要だと考えたか」との関係



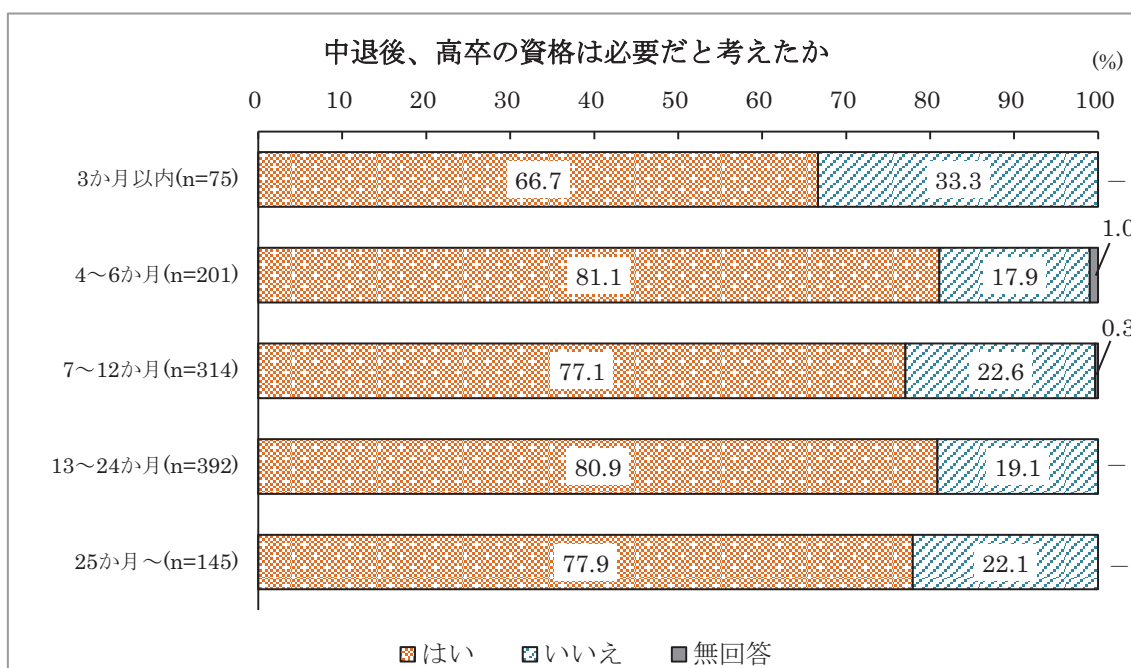
「中退後、高卒の資格は必要だと考えたか」について「はい」と回答した者は、「在学中」の者で93.9%、「働いている」者で71.0%となっている。

(3) 「問1 (3) 中退後経過期間」と「問12 高校を辞めたことを後悔しているか」との関係



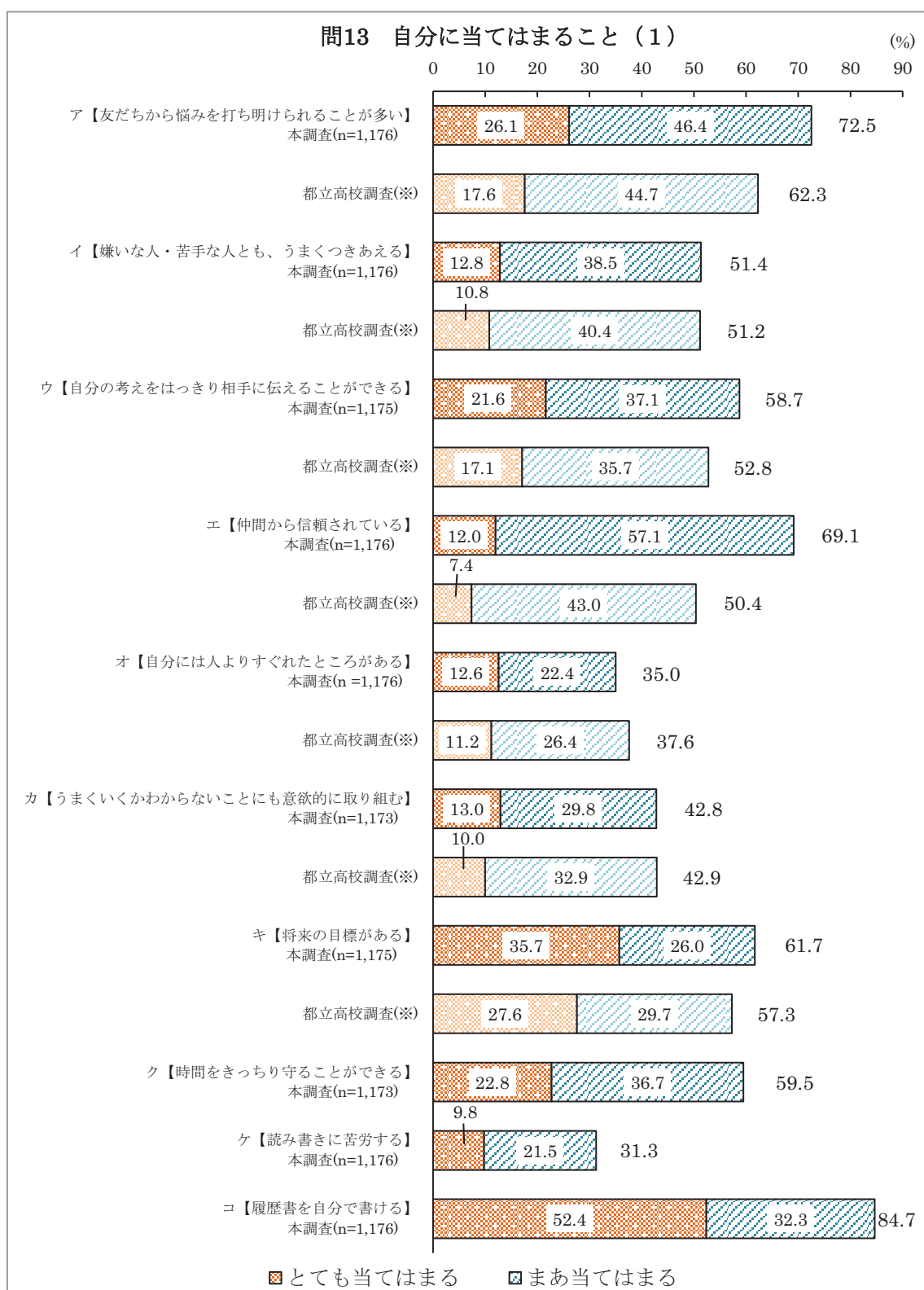
中退後経過期間「3か月以内」の者のうち「高校を辞めたことを後悔しているか」に「はい」と回答した者は、10.7%となっている。一方で、中退後経過期間「25か月～」の者のうち「はい」と回答した者は、27.6%となっている。

(参考) 「問1 (3) 中退後経過期間」と「問6 (1) イ 中退後、高卒の資格は必要だと考えたか」との関係



「中退後、高卒の資格は必要だと考えたか」は、中退後経過期間「3か月以内」の者が66.7%となっている。

13 自分に当てはまること（１）（「とても当てはまる」と「まあ当てはまる」の計）

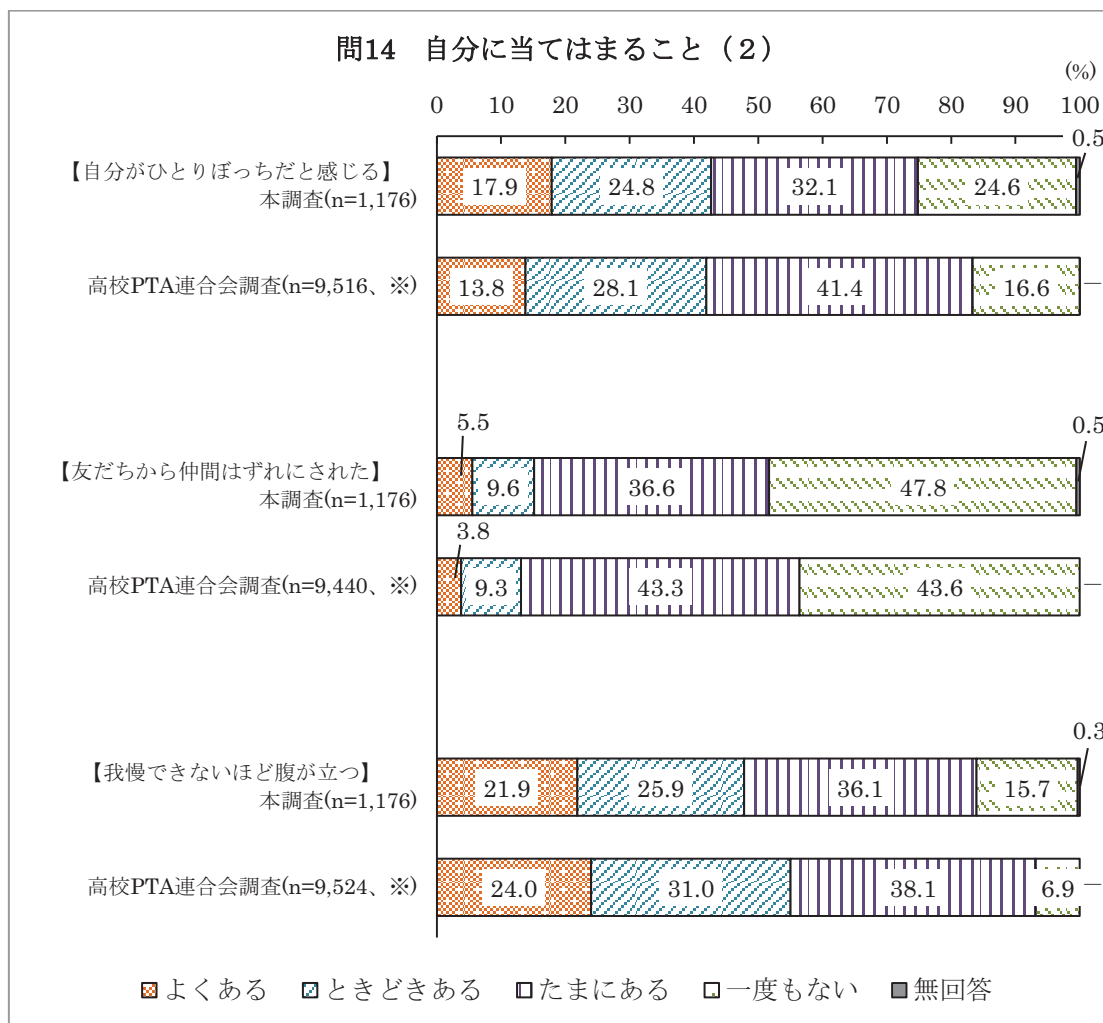


自分に当てはまること（１）は、10項目中7項目について肯定的な回答をしている者が50%を超えている。一方で、「自分には人よりすぐれたところがある」について肯定的な回答をした者は35.0%となっている。

参考までに、「都立高校調査」(※)のうち、同様の質問が行われているもの(ア～キ)については、その結果を併記した。

(※)「都立高校調査」とは、「都立高校生の生活・行動・意識に関する調査<2007年>」
(東京大学教育学部比較教育社会学コース・Benesse 教育研究開発センター 共同研究)
であり、表示したグラフは公表されている集計表 (%) を基に内閣府が作成したもの
(n=1,548)。
(http://benesse.jp/berd/center/open/report/toritsu_kousei/2009/index.html)

14 自分に当てはまること（2）



自分に当てはまること（2）は、「我慢できないほど腹が立つ」（「よくある」と「ときどきある」の計）が本調査 47.8%、高校PTA連合会調査 55.1%となっているものの、社団法人全国高等学校PTA連合会全国調査との比較において大きな違いは見られない。

（※）「高校PTA連合会調査」とは、「全国高校生の生活・意識調査＜平成16年度＞」（社団法人全国高等学校PTA連合会）であり、表示したグラフは公表されている集計表（n及び%）を基に内閣府が作成したもの。